

# 構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと  
適用は ■ 印を記入する。

## 1. 建築物の構造内容

(1) 建築場所	広島県三原市西野5丁目2番地
(2) 工事種別	■新築 □増築 □増改築 □改築
(3) 構造設計一級建築士の関与	□必要 ■必要としない
□ 法第20条第一号（高さ 60 m超）	
□ 法第20条第二号（RC構造高さ 20 m超）	□S造 4 階以上 □木造高さ 13 m超 □その他
注(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認する事。	
(4) 構造種別	□木造 (W) □補強コンクリートブロック造 (C-B) ■鋼鉄骨造 (S) □鉄筋コンクリート造 (R-C) □壁式鉄筋コンクリート造 (WRC) □鋼骨筋コンクリート造 (SRC) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WP RC) □プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) □
(5) 階数	棟 地下 階 地上 2 階 塔屋 階
(6) 主要用途	認定こども園
(7) 屋上付属物	□高架水槽 kN ■キュービクル kN □広告塔 □煙突
(8) 特別な荷重	□エレベータ 人乗（マシンルームレス ロープ式 油圧式） □リフト kN □ホイスト kN □倉庫積載用 N/m <sup>2</sup> □受水槽 kN □
(9) 付帯工事	□門扉 □跳板 □駐輪場 □機械式駐車場 □ □
(10) 増築計画	□有 ( ) ■無
(11) 構造計算ルート	X方向ルート 2 - ( ) Y方向ルート 2 - ( )

## 2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)				
適用箇所	種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> = N/mm <sup>2</sup>	品質基準強度 F <sub>q</sub> = N/mm <sup>2</sup>	スランプ cm
捨てコンクリート	■普通	18.0	18.0	15.0
土間コンクリート	■普通			
基礎・基礎梁	■普通	24.0	27.0	18.0
柱・梁・床・壁	■普通、□軽量	24.0	27.0	18.0
押えコンクリート	□普通、□軽量			比重
細骨材の種類	■砂 □山砂 □人工 □			
粗骨材の種類	□砂利 ■碎石 □人工 □			
水の区分	■水道水 □地下水 □工業用水 □			
混和材料の種類 (JIS A 6204)	■AE減水剤 □高性能AE減水剤 □			
呼び強度を保証する材質、養生	■材枠 ( ) 28日 □ 56日 □ □ ) ■美生 ( ) 現場封かん ■現場水中 □標準 □ )			
■単位水量は 185kg/m <sup>3</sup> 以下、単位セメント量は 270kg/m <sup>3</sup> 以上とする。				
(2) コンクリートブロック (□ JIS A 5406)	□ A種 □ B種 □ C種 厚 □ 100 □ 120 □ 150 □ 190	使用箇所 ( ) □ )		
(3) 鉄筋	種類 径 使用箇所 錫手法			
■SD295 A	D10-D16	基礎、地中梁 ■重ね錫手		
■SD285 B		■ガス圧接錫手		
■SD345	D19以上	口溶接錫手		
■SD390		□機械式錫手 ( )		
高強度せん断補強筋	□材種	各錫手の使用詳細については本仕様5.2 認定品の鉄筋錫手等にて表示すること。		
丸鋼 (JIS G 3112)	■大巨認定番号 MSRB-			
溶接金剛 (JIS G 3551)	□ SR235			

## 4. 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
■SS400 □SN400 □SN400 A, B, C	等	□有 ■無	JIS G 3101
□STK400 □STK400 □		□有 □無	JIS G 3466
■BCR295 □BGP235 □BOP235	柱	□有 ■無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□SM490 A ■SN490 B ■SN490 C	■ベースプレート、ダイヤフラム	□有 ■無	JIS G 0742同等品
□SC400 □		□有 □無	JIS G 3350
溶接材料	□ JIS Z		

○ 使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト	■高力ボルト
□F10 (JIS B1166)	■S10T 認定番号 MBLT-0052 □F8T 認定番号 ( ) ( ■M16, ■M20, □M22, □M24)
□ボルト (JIS B1180)	M 12 M 4.8 (4T) □
■アンカーボルト	□SS400 M L= mm ナット (ロシングル、ロダブル) ■ABR490 M 24 L= 600 mm ナット (ロシングル、ダブル)
□頭付スタッドボルト	φ= L= mm 使用箇所 (口柱 口大梁 口小梁) φ= L= mm 使用箇所 (口柱 口大梁 口小梁)

材種	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
ALC (JIS A 5416)	厚 100 ■壁 □床版 □スライド □ボルト止め □ロックギング □		
折版	H= 160 厚 0.8 □床版 □		
特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式 厚 □床版 □		
デッキプレート (JIS G 3352)	型式 QL99-50 厚 1.2 □床版 □		
キーストンプレート (JIS G 3352)	型式 厚 □床版 □		

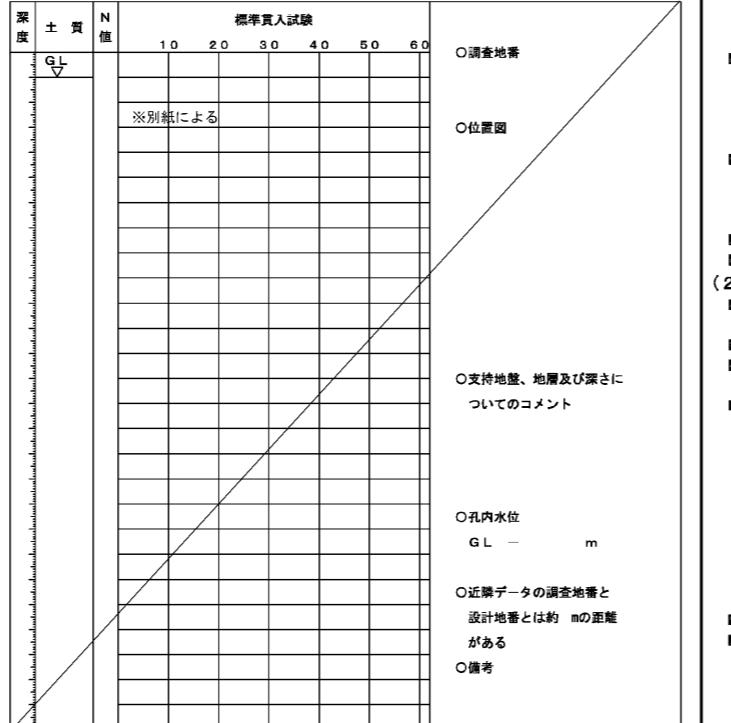
## 3. 地盤

### (1) 地盤調査資料と調査計画

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○	静的貫入試験		標準貫入試験	
水平地盤反力係数の測定		土質試験		物理探査	
試験掘 (支持層の確認)		平板載荷試験		液状化判定	
スエーデンサウンディング		現場透水試験		P S 検査	

注) 上記中の資料があるもの、調査計画があるものに○を記入する。

### (2) ポーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



注) 地盤調査及び試験坑の結果により、杭長さ、杭径、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

## 4. 地業工事

(1) 直接基礎	□布基礎	■独立基礎	試験場 □有 □無
深さ GL- m、支持層—		、長期許容支持力度 500 kN/m <sup>2</sup>	載荷試験 □有 □無
(2) 地盤改良	■浅層混合処理工法	□深層混合処理工法	□

深さ GL- m、長期許容支持力度 500 kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 □有 □無

注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする

### (3) 杭基礎 支持層—

杭種	材料	施工法	備考
□RC □PRC	PRC (□ I 種 □ II 種 □ III 種)	□打ち込み	
□PHC □鋼	PHC (□ A種 □ B種 □ C種)	□埋込み (セメントミルク法)	
□鋼管	鋼管	□ JIS SS400 □ SKM400	認定第 号 年 月 日
□SC杭	□	□ JIS	

杭場所打ち	コンクリート F <sub>c</sub> N/mm <sup>2</sup>	□オールケーシング □抵底杭	認定 号 年 月 日
コンクリート杭	F <sub>q</sub> N/mm <sup>2</sup>	□リバースサーキュレーション	
スランプ cm	cm以下	□アースドリル □ミニニアース	
セメント量 kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	□BH □深礎 (□手掘 □機械掘)	
単位水量 kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>		
鉄筋 SD HOOP SD			

杭	施工計画書承認	杭施工結果報告書	本
試験杭	(□有・□無)	(□打ち込み・□載荷・□孔壁測定)	
杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本 数
			特記事項

## 5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (F<sub>c</sub>) が 36 N/mm<sup>2</sup> 以下に適用し、鉄筋の材種は SD390 以下に適用する。

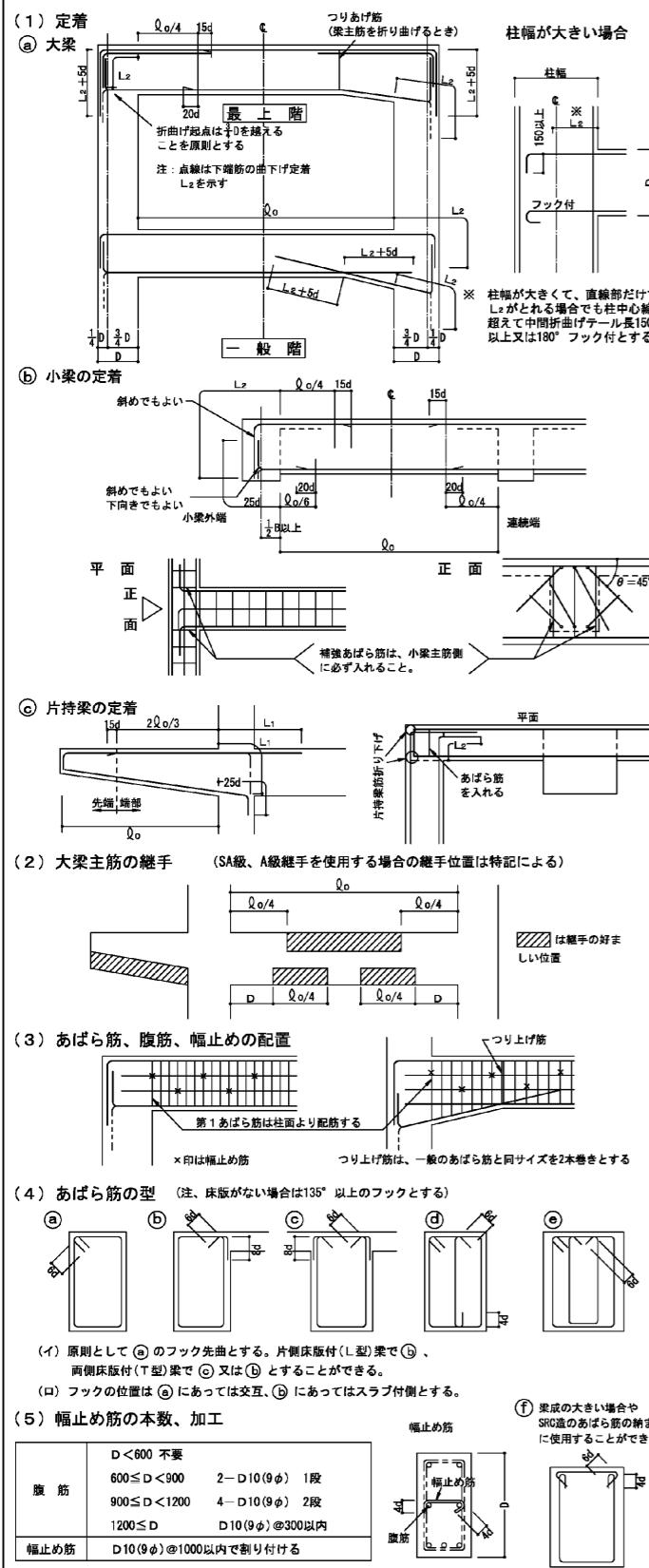
### (1) コンクリート

- コンクリートは JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5による。
- 耐久設計基準強度 F<sub>d</sub> □一般 ■標準 □長期 □
- セメントは、JIS R 5210 の普通ボルトランドセメントを標準とする。
<li

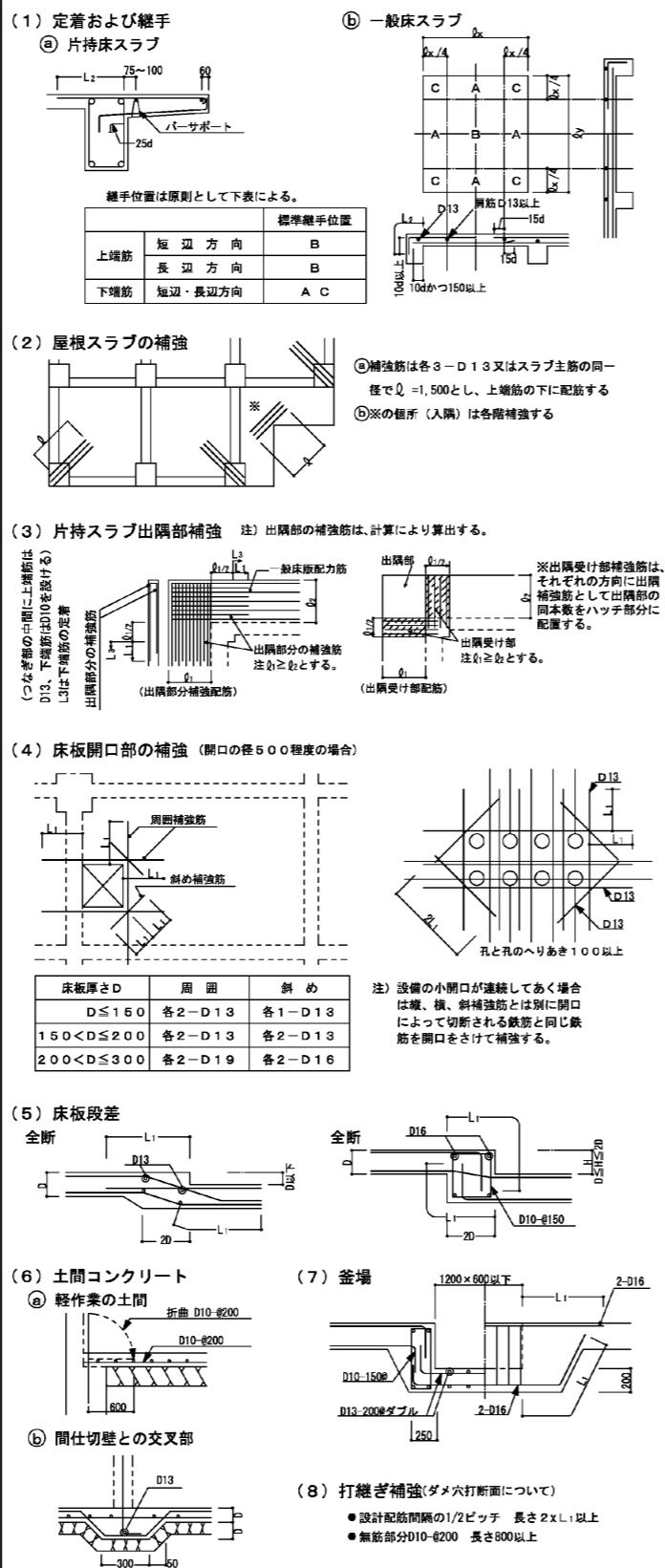


## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

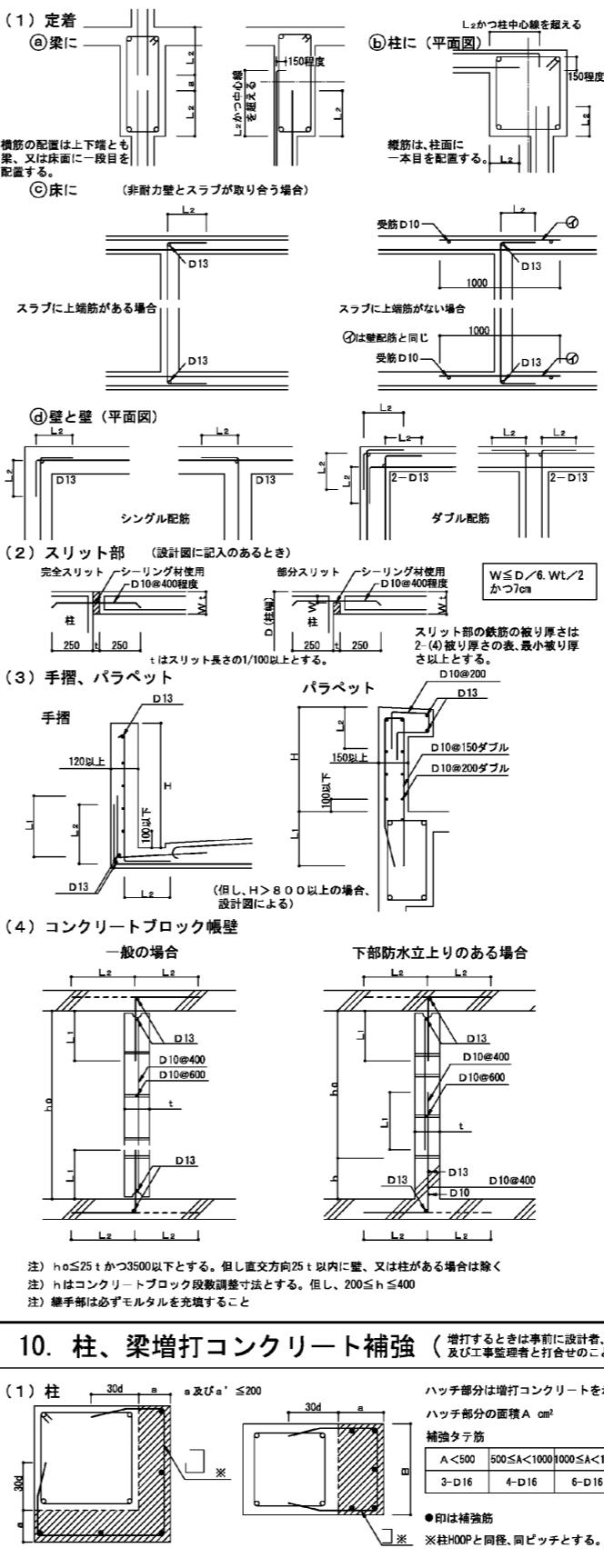
## 7. 大梁、小梁、片持梁



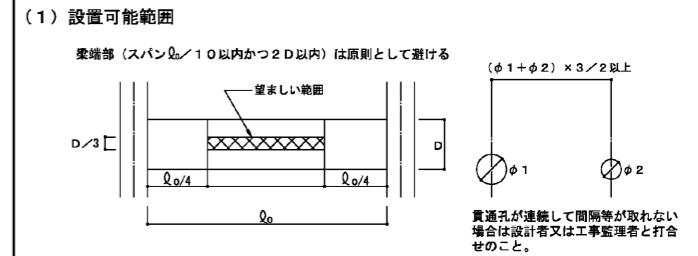
## 8. 床 板



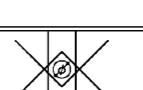
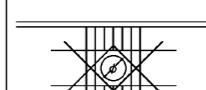
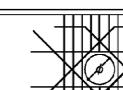
9. 壁



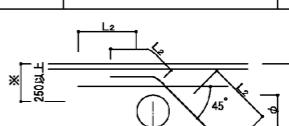
## 11. 梁貫通孔補強 (開口)



(2) 鉄筋標準配筋 但し  $\phi \leq D/3$  とする

$80 \leq \phi \leq 100$ 折 筋 2-(D13) 縱 筋 ST 2-D13	$100 < \phi \leq 150$ 折 筋 2-(D13) 縱 筋 ST 2-D13 @50 横 筋 2-(D13) 上 縱筋 ST 2-D13 @50 下 縱筋 ST 2-D13 @50	$150 < \phi \leq 250$ 斜 筋 4-(D13) 縱 筋 ST 2-D13 @50 横 筋 2-(D13) 上 縱筋 ST 2-D13 @50 下 縱筋 ST 2-D13 @50
		

孔補強の有効範囲と定着長さのとり方



※部分について計算で確認された場合は左記の位置、寸法によらなくて良い。

(3) 既製品 (使用する際には、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

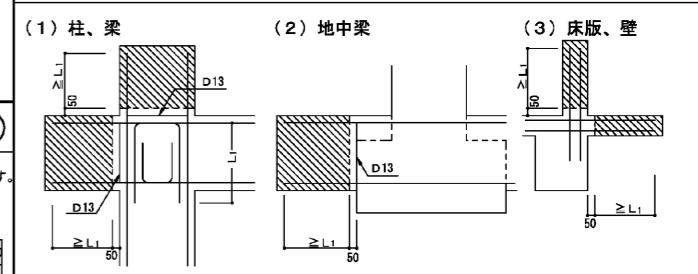
ウェブレン、ダイヤレン 等 日本建築センター評価取得品とする。

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

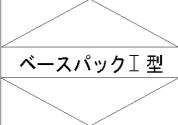
リング型     パイプ型     金網型     プレート型

## 12. 増築予定 (将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する)









## 角形鋼管

F値295N/mm<sup>2</sup>以下

□-150×150 ~ □-300×300 用

(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

# ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社

TEL03 (3624) 5336

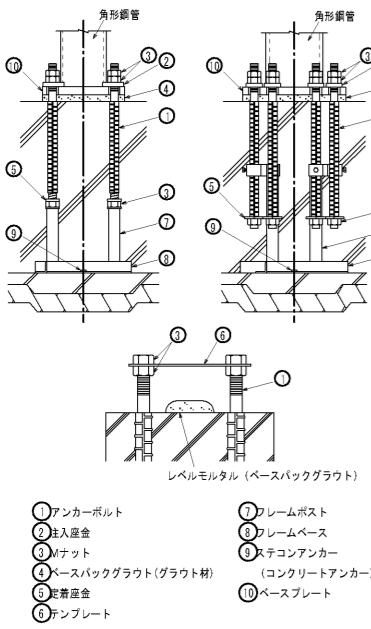
旭化成建材株式会社

TEL03 (3296) 3515

2019年1月作成

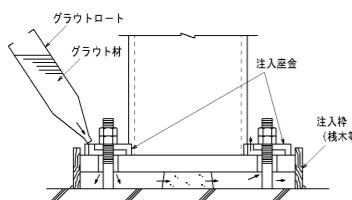
## 1. 工法概要

### 1.1 構成部材



(注)上記○印の構成部材はベースパック構成部品として供給される。  
(注)上記○印実現状況により仕様が異なる場合がある。

### 1.2 柱脚の定着方法概要



## 2. 柱

F値(N/mm <sup>2</sup> )	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	TS295	

採用 ベースパック 記号	柱 外径 (mm)	板厚 (mm)	ベースプレート		アンカーボルト				コンクリート柱型			フレームベース		フレームボスト間		最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)							
			材質	形状	寸法(mm)				本数-呼び アーチ	基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	寸法D(mm)		配筋	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	寸法W(mm)		標準フレーム	特C						
					a	t	11	12	13	d	標準フレーム	立上り筋	フープ筋	寸法X(mm)	標準フレーム	特C								
15-12V	□-150×150	t≤12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13#100	21以上	250	-	150	-	550	135
17-12V	□-175×175	t≤12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13#100	21以上	280	-	180	-	600	135
20-09V	□-200×200	t≤9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13#100	21以上	310	-	210	-	600	135
20-12V	□-200×200	t≤12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13#100	21以上	310	-	210	-	600	135
25-09V	□-250×250	t≤9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13#100	21以上	360	-	260	-	650	150
O 25-12V	□-250×250	t≤12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13#100	21以上	370	-	270	-	650	150
25-16V	□-250×250	t≤16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13#100	21以上	240	440	140	300	650	135
30-09V	□-300×300	t≤9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13#100	21以上	420	-	320	-	650	150
30-12V	□-300×300	t≤12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13#100	21以上	310	510	210	370	650	135
30-16V	□-300×300	t≤16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13#100	21以上	310	510	210	370	700	150
30-19V	□-300×300	t≤19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13#100	21以上	340	540	240	400	700	150

## 3. 構成部材・寸法

### 3.1 ベースプレート

#### ●材質

SN490B [JIS G 3136]

●寸法

寸法(mm)

呼び名

単位 mm

基準強度(N/mm<sup>2</sup>)

呼び名

単位 mm

基準強度



## 角形鋼管

F値295N/mm<sup>2</sup>以下

□-350×350 ~ □-550×550 用

(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

## ベースパック柱脚工法 施工標準図

岡部株式会社

TEL03 (3624) 5336

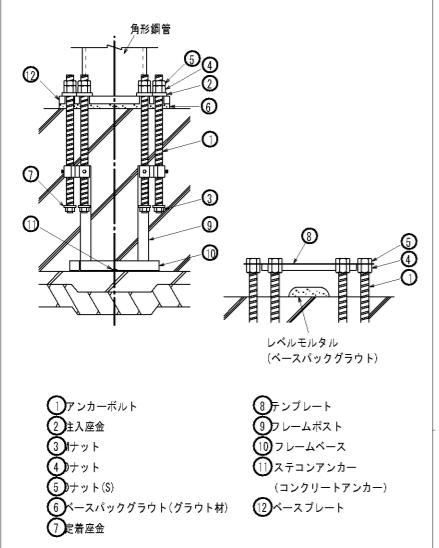
旭化成建材株式会社

TEL03 (3296) 3515

2019年1月作成

## 1. 工法概要

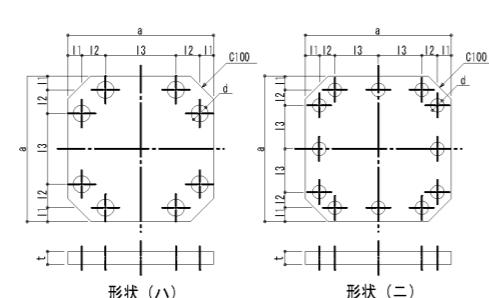
## 1.1 構成部材



## 3. 構成部材・寸法

## 3.1 ベースプレート

●材質  
SN490B [JIS G 3136]  
BT-HT440B-SP [建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料]  
(建築基準用高強度高性能590N/mm<sup>2</sup>鋼材)



## 3.3 Mナット・Dナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

ナット	単位 mm		
	A	B	(e)
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M45	36	70	81
D38	45	65	75
D41	48	70	80
D51	60	80	92
D38 (S)	30	65	75
D41 (S)	32	70	80
D51 (S)	40	80	92

## 3.4 定着座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料, SS400】

適用 アンカーボルト	a	t	d	単位 mm	
				材質	記号
D38	65	12	37	SS400	P038
D41 (D41H)	70	12	37	SS400	P041
D51 (D51H)	85	12	46	SS400	P051

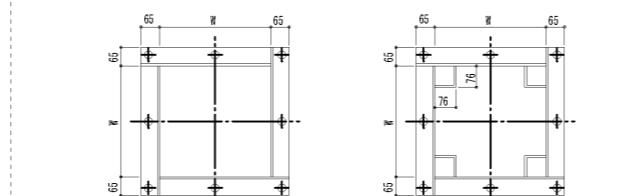
## 3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料, SS400】

適用 アンカーボルト	a	c	t	d	単位 mm	
					材質	記号
D38	96	122	20	43		P038
D41 (D41H)	100	127	20	46		P041
D51 (D51H)	110	140	20	58		P051

## 3.6 フレームベース

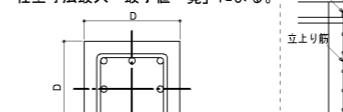
【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料, SS400】



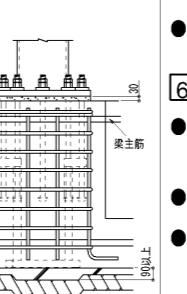
## 4. コンクリート柱型

## 4.1 形状・材質

●形状  
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



## 4.2 配筋



## 6. 工事場施工

## 6.1 基礎工事

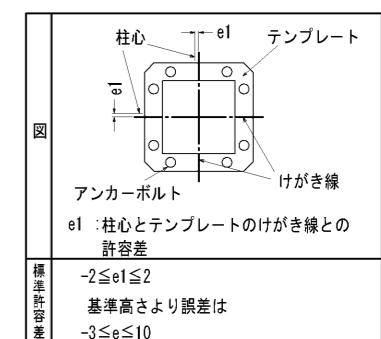
●柱脚の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

## 6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立てでは、4隅のアンカーボルト4本（8本）で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地盤等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



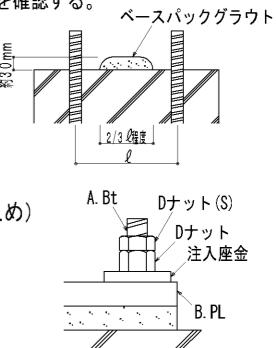
## 6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

## 6.4 建方

●レベルモルタルはベースパック  
グラウト（グラウト材）を使用し  
大きさは右図による。



## 6.5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、  
ダブルナットを標準とする。

●Dナット(S)による弛み止めは右図による。

## 6.6 ベースパックグラウト（グラウト材）の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

## 5. 工場製作（溶接）

## ■組立

●ベースプレートの中心線（かがき線）に柱材軸心を合わせる。

## ■溶接方法（完全溶込み溶接）

●完全溶込み溶接とする。（JASS 6 鉄骨工事による）

図	溶接方法	適用板厚1mm	ルート間隔(l/mm)		ルート面R(mm)		開先角度α1(°)		溶接姿勢
			標準	許容差	標準	許容差	標準	許容差	
6~	被覆アーチ溶接	7	-2,+∞	2	-2,+1	(-2,+2)	α1: 45	-2.5,+∞	下向き
		9	-2,+∞	2	-2,+1	(-2,+2)	α1: 35	(-5,+∞)	
6~	ガラスドライバーグラウト溶接	6	-2,+∞	2	-2,+1	(-2,+2)	α1: 45	-2.5,+∞	下向き
		7	-2,+∞	2	-2,+1	(-2,+2)	α1: 35	(-5,+∞)	

許容差・記号+∞は制限無しを示す。

・2段書きは「鉄骨構造機械基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段：拘束・裏表許容差）を示す。

## ■ベースプレートの予熱

●気温（鋼材表面温度）が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)
SN490B	40≤t≤50	50<t≤75
BT-HT440B-SP	50	50
SN490B	予熱なし	予熱なし

SN490B 予熱なし

BT-HT440B-SP 予熱なし

ガスシールドアーク溶接 予熱なし

BT-HT440B-SP 予熱なし

# ヘーベル 外壁・間仕切壁《縦壁ロックキング構法》 ロックインウォール 設計施工標準図

## I ALCパネル仕様

### 1 ALCパネル仕様

### 2 ALCパネル使用部位およびパネル厚

外壁 平パネル	□ 100厚	間仕切壁	□ 75厚
外壁 意匠パネル	■ 100厚		□ 100厚
			□ 125厚

### 3 ALC外壁仕様

- (1) パネル取付け構法  
■ 縦壁構法    ■ 縦壁ロックキング構法    ■ ロックインウォール

(2) 設計風圧力	
階 ~ 階	正 [ N/m <sup>2</sup> ]
階 ~ 階	正 [ N/m <sup>2</sup> ]
階 ~ 階	負 [ N/m <sup>2</sup> ]
階 ~ 階	負 [ N/m <sup>2</sup> ]

(3) パネル特殊仕様	
特記: □ 意匠パネル	
□ デザインパネル (表面に凹凸デザイン模様)	
□ ジーファスパネル (岩肌調デザイン模様)	
□ Canvasパネル (表面にプラスチック模様)	
□ スタンダード (番号)	
□ オリジナル	
□ 下地処理済みパネル (表面にフィラーダ下地処理済み)	
□ S Pパネル (その他)	
□ S Iパネル (吸水性を抑えたパネル)	
□ その他	

4 ALC間仕切壁仕様	
(1) パネル取付け構法	<span style="color: #000080;">■</span> 縦壁構法 <span style="color: #000080;">■</span> 縦壁ロックキング構法 <span style="color: #000080;">■</span> ロックインウォール <span style="color: #000080;">□</span> その他 ( )

(2) パネル特殊仕様	
特記:	

## II 関連資材仕様

### 1 シーリング材 (ALCパネル間)

- (1) 種類
- ポリウレタン系    耐久性区分 8020
  - 变成シリコーン系    耐久性区分 8020
  - アクリル系 (エマルジョンタイプ)    耐久性区分 7020
  - その他 ( )    耐久性区分 ( )

### (2) その他特記事項 (品名: )

2 耐火目地材  
 ロックウール保溫板(JIS A 9504)または  
 高温断熱ウールAESプランケット(JIS R 3311)品質同等

### 3 防錆塗料 (ALC下地鋼材、開口部補強鋼材塗装用)

特記による ( )

## III 内外装仕様

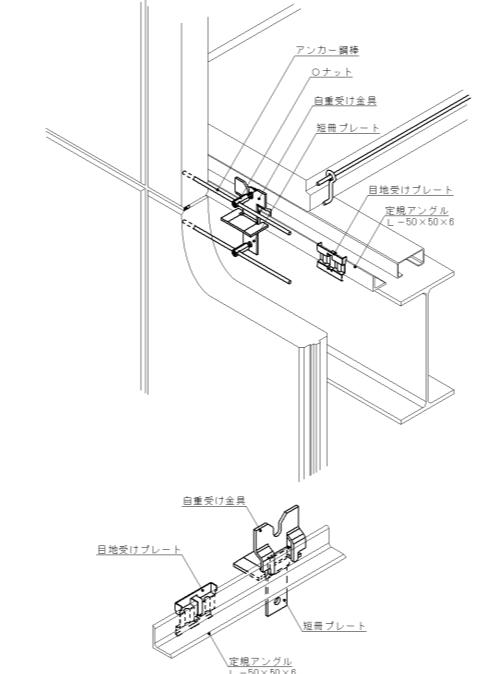
### 1 外装仕上げ

- 吹付け仕上げ (特記:  
 □ 極厚仕上塗材 (JIS A 6909)  
 □ 複層塗材 E (アクリルタイル)  
 □ 複層塗材 C E (セメント系吹付タイル)  
 □ 複層塗材 S i (シリカタイル)  
 □ その他)
- 蓋付け仕上塗材 (JIS A 6909)  
 □ 外装薄塗材 E (樹脂リシン)  
 □ 外装薄塗材 S (溶液リシン)  
 □ その他 ( )
- 厚付け仕上塗材 (JIS A 6909)  
 □ 外装厚塗材 E (樹脂スタッコ)  
 □ 外装厚塗材 S i (シリカスタッコ)  
 □ その他 ( )
- 張り仕上げ  
 □ タイル張り (特記:  
 □ 金属パネル張り (特記:  
 □ ボード張り (特記:  
 □ その他 (特記:

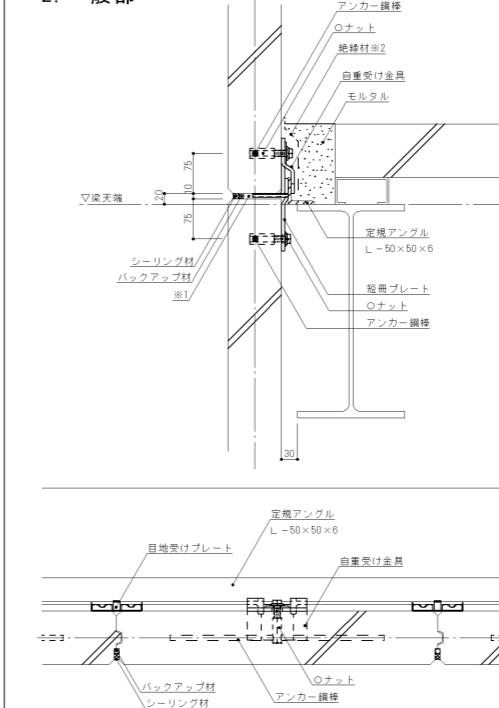
### 2 内装仕上げ

- ボード仕上げ    □ 納縫工法 (特記:  
 □ ベイント仕上げ (特記:  
 □ 吹付け仕上げ (特記:  
 □ タイル張り (特記:  
 □ その他 (特記:

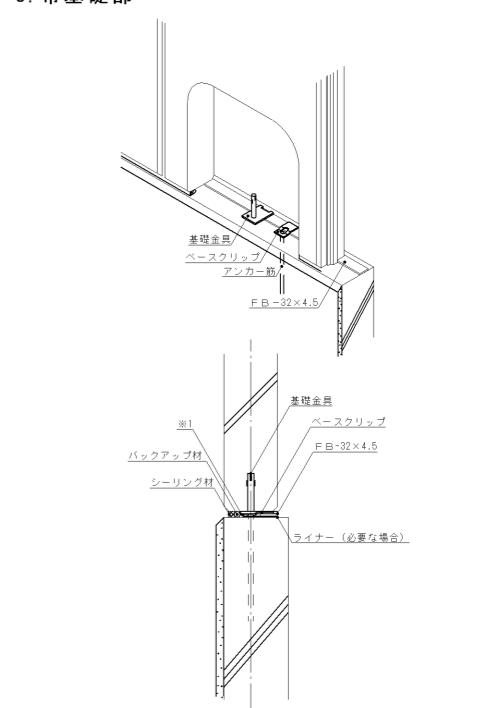
## 1. 構法概要 (ロックインウォール)



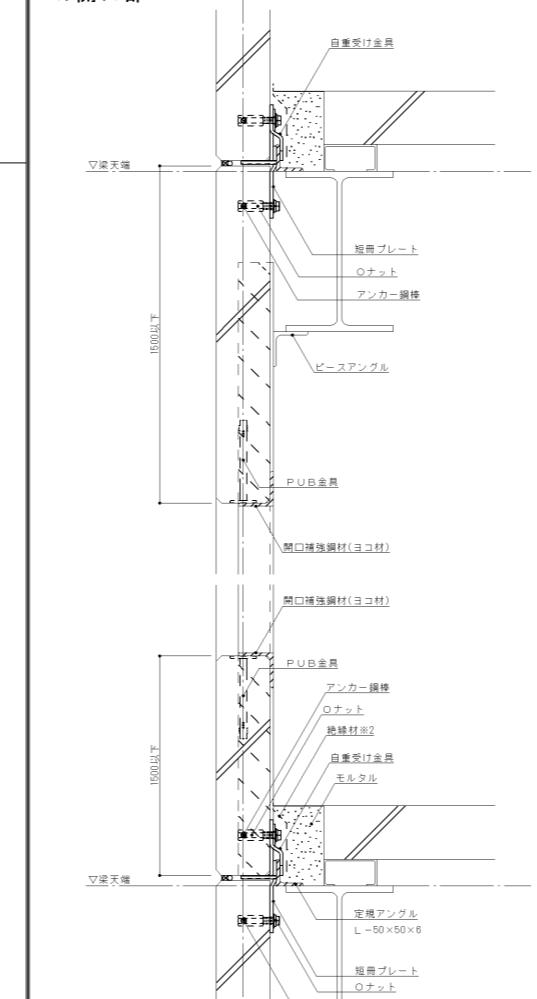
## 2. 一般部



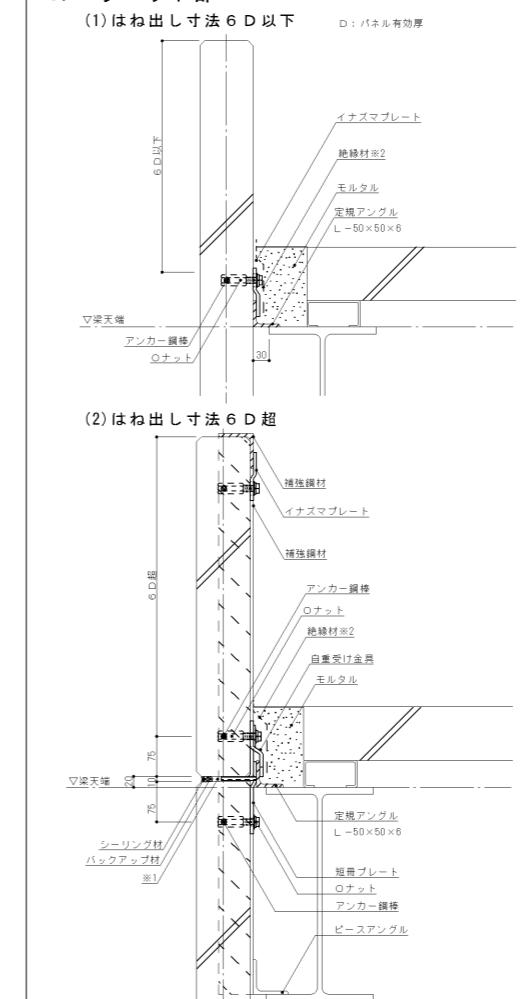
## 3. 基礎部



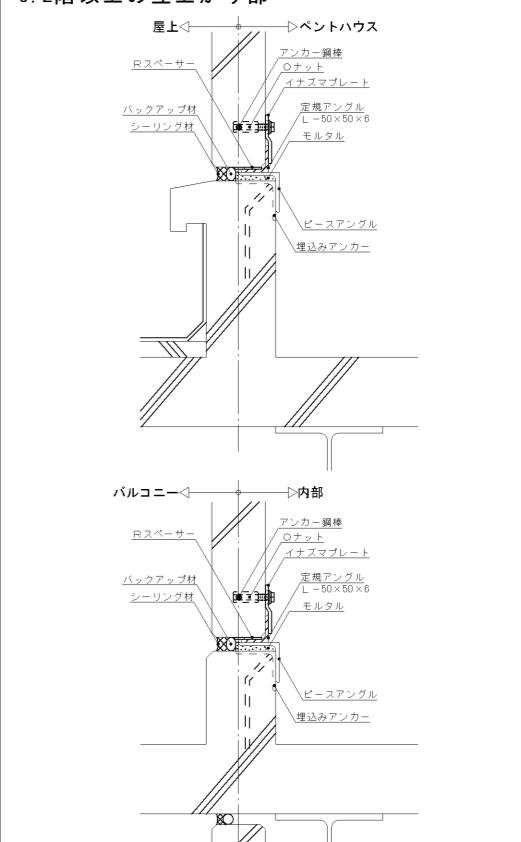
## 4. 開口部



## 5. パラペット部



## 6. 2階以上の立上がり部



※1 耐火目地材：横目地、出隅、入隅部、伸縮目地や軒まわりなどの目地で、耐火構造・断熱など必要な場合は、指定された耐火目地材を充てんする。  
 ※2 絶縁材：床取合部では、モルタルがパネルのロックインを拘束しないように、パネルとモルタルの間に全長にわたりて絶縁材を設ける。

# QL デッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様①

JFE 建材 株式会社

[耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用]

QL デッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種構造設計指針・同解説」、「鉄骨工事技術指針」、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS6鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」と同様工事に準拠する。

## 設 計

材料/デッキプレート		[ISO 9001認証取得]	
QL デッキ		支承梁: 鉄骨(S)梁及び大梁: 鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨コンクリート(SRC)梁、小梁: 鋼管(S)梁	
QL 99-50	端部加工 □内扣り有り □Q L 99-75	■1.2 QL 99-50 QL 99-75	□2.1 QL 99-50 QL 99-75
QL 99-50	口なし	□1.6	□1.6
QL 99-75	□なし	□なし	□なし

\*1 現場搬入までの一次防護 (JIS K 5621 2種または3種相当)

材質 JIS G 3352 に定める SDP 1T, SDP 2, SDP 2G

材料/コンクリート  
種類 熟成普通コンクリート □軽量コンクリート (□大粒 □2種)  
設計基準強度 □18 □21 ■ (24) N/mm  
厚さ (QL デッキ上) □60 □70 □80 □85 □90 □95 □100 □( ) mm

材料/溶接金網・異形筋鉄  
■ 溶接金網 JIS G 3551 ■ Ø6-150×150 □ Ø6-100×100  
□ 异形筋鉄 JIS G 3112, 3117 □ D10-200×200 □( )

接合  
接着剤溶接 下記耐火性検査溶接の項による  
打込み頭 頭付きスタッド JIS B 1198 □ Ø13 ■ Ø16 □ Ø19 □ Ø22 各長さ・ビッチは特記による  
※頭付きスタッドは頭付きスチールの長さはデッキ裏面+30mm以上とする。  
その他

耐火  
支保工有無 その他:  
■ 無 □ 有

焼抜き栓溶接  
デッキプレート幅方向 QL 99-50 QL 99-75

デッキプレートスパン方向  
QL デッキ設計マニュアルに基づいて決定する。  
A =  $\frac{1}{5} Q_s \times 1000 \text{mm}$  かつ 600mm 以下  
Qs: 烧抜き栓溶接 1kgあたりの長期許容せん断力 (N)  
Qs: 設計最大せん断力 (N)  
A: 烧抜き栓溶接ビッチ (mm)  
W: 300, 7.35m (mm), 6.860 (m²)  
(注) 施工に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要。

アクセサリー  
フランジ (QL デッキ側面の調節用に用いる)  
ハンガーフック (QL デッキ下部に用いる)  
クローザー (QL デッキの内扣り用に用いる)

施工順序  
1. 墓出し  
2. 敷込み  
3. デッキと梁との接合  
4. 溶接金網敷込み  
5. 檜材  
6. コンクリート打設

施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)  
注1: 普通コンクリート、D10-200×200、表面処理が塗装めっきの場合  
注2: 表を超える場合は、別途施工が必要です。

耐火仕様		【連続支持合成スラブ】	
支承梁: 鉄骨(S)梁及び大梁: 鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨コンクリート(SRC)梁	表面処理: 溶接金網又は異形筋鉄(D10-Ø200)	品名: 支持スパン: コンクリート厚さ: 80mm以上	許容載荷重: φ6-150×150
床: 1時耐火 FP60FL-9095	普通コンクリート	QL 99-50 3.0m以下	算出式: f5(A) A参考
	■垂吊めつき	QL 99-75 3.4m以下	算出式: f5(B) B参考
	QL 99-75 (高耐食溶接めつき鋼板) [Y18 CY27] その他の( )	QL 99-50 3.0m以下	4.4.00N/m²以下
	□なし	QL 99-75 3.4m以下	算出式: f5(B) B参考
	QL 99-75 (高耐食溶接めつき鋼板) [Y18 CY27] その他の( )	QL 99-50 3.0m以下	φ6-150×150
	□なし	QL 99-75 3.4m以下	算出式: f5(B) B参考

\*1 現場搬入までの一次防護 (JIS K 5621 2種または3種相当)

材質 JIS G 3352 に定める SDP 1T, SDP 2, SDP 2G

材料/コンクリート  
種類 熟成普通コンクリート □軽量コンクリート (□大粒 □2種)  
設計基準強度 □18 □21 ■ (24) N/mm  
厚さ (QL デッキ上) □60 □70 □80 □85 □90 □95 □100 □( ) mm

材料/溶接金網・異形筋鉄  
■ 溶接金網 JIS G 3551 ■ Ø6-150×150 □ Ø6-100×100  
□ 异形筋铁 JIS G 3112, 3117 □ D10-200×200 □( )

接合  
焼抜き栓溶接 下記耐火性検査溶接の項による  
打込み頭 接合箇所は特記による  
頭付きスタッド JIS B 1198 □ Ø13 ■ Ø16 □ Ø19 □ Ø22 各長さ・ビッチは特記による  
※頭付きスタッドは頭付きスチールの長さはデッキ裏面+30mm以上とする。

その他

耐火  
支保工有無 その他:  
■ 無 □ 有

焼抜き栓溶接  
デッキプレート幅方向 QL 99-50 QL 99-75

デッキプレートスパン方向  
QL デッキ設計マニュアルに基づいて決定する。  
A =  $\frac{1}{5} Q_s \times 1000 \text{mm}$  かつ 600mm 以下  
Qs: 烧抜き栓溶接 1kgあたりの長期許容せん断力 (N)  
Qs: 設計最大せん断力 (N)  
A: 烧抜き栓溶接ビッチ (mm)  
W: 300, 7.35m (mm), 6.860 (m²)  
(注) 施工に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要。

アクセサリー  
フランジ (QL デッキ側面の調節用に用いる)  
ハンガーフック (QL デッキ下部に用いる)

施工順序  
1. 墓出し  
2. 敷込み  
3. デッキと梁との接合  
4. 溶接金網敷込み  
5. 檜材  
6. コンクリート打設

施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)  
注1: 普通コンクリート、D10-200×200、表面処理が塗装めっきの場合  
注2: 表を超える場合は、別途施工が必要です。

## 標準納まり

図中1は、梁に1, 2または3番目の耐火性能が要求される場合のみ適用。

\*2はQL デッキ耐火認定を適用する場合に必要。

\*3 溶接方法等は別途検討が必要。(合成スラブ工業会Q&A参照)

鉄骨(S)梁

鉄筋コンクリート(RC)梁・鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

柱

# テノコラム地業特記仕様書

## 1. 工事概要

本工事は、テノコラム工法による地盤改良地業である。テノコラム工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した搅拌装置を用いて、原位置土と機械的に搅拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を養成するものである。

## 2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針（平成16年4月）」（日本建築センター）による。

## 3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（設計コラム長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- (2) コラムの設計基準強度は  $F_c = 1200 \text{ kN/mm}^2$  ( $1.20 \text{ MN/m}^2$ ) とする。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- (4) 本工事法は、テノコラム工法（財団法人先端建設技術センター先端建設技術・技術審査証明第2001号）とする。  
又、品質確保の為、技術審査証明取得業者が常駐管理の元に施工を行う。

## 4. 施工計画

(1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、テノコラム協会に所属する会員とする。

(2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| ① 工事名及び工事場所  | ⑦ 固化材配合条件             |
| ② コラム仕様（コラム径・掘削深度（設計コラム長+空掘長）<br>・本数・設計基準強度）         | ⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録） |
| ③ 工事期間及び工程   | ⑨ 品質検査                |
| ④ 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名<br>及び責任者、各種作業の主たる従事者） | ⑩ 安全衛生対策              |
| ⑤ 施工手順   | ⑪ 地盤概要（土質柱状図）         |
| ⑥ 施工機器   | ⑫ コラム伏図               |
|  | ⑬ 技術審査証明書（写）          |

## 5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
  - a. 搅拌混合装置をコラム心に合せる。
  - b. 固化材液を吐出せずに、空掘部を所定の深度まで掘進する。
  - c. 固化材液を吐出しながら掘進・搅拌混合する。
  - d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。
  - e. 先端部練り返し工程が終了したら、搅拌軸を逆回転し引き上げ搅拌混合する。
- (3) 実施コラム長は、設計図書で示された支持地盤に着底する長さとする。
- (4) 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

## 6. 施工機械

- (1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材液と原位置土を確実に搅拌混合できる搅拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

## 7. 配合管理

(1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。

(2) 配合強度

変動係数を25%と想定し、9項目に規定する抜取ヶ所数N、合格確率80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4~6	7~8	9~
$\alpha$	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

$X_f = \alpha \times F_c$  [  $\alpha$  : 割り増し係数、  $X_f$  : 配合強度 ]

(3) 室内配合試験

固化材液の配合（W/C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。  
あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

## 8. 施工管理

(1) 施工の安定性を確保するため以下に示す項目について施工管理する。

- |         |                           |  |
|---------|---------------------------|--|
| ① 形状・寸法 | 鉛直性                       | 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。                 |
|         | コラム心                      | 事前にコラム心にマークを設ける。                           |
|         | 掘削深度                      | 深度計で計測し記録する。                               |
|         | コラム径                      | 搅拌装置の形状・寸法を記録する。                           |
| ② 固化材   | 材料計量                      | 水、固化材の重量                                   |
|         | 固化材液の密度                   | マッドバランス（泥水比重計）等で計測する。                      |
| ③ 搅拌混合度 | 固化材液の添加量又はスラリーの吐出量        | スーパーシステムによる施工管理又は流量計で計測し、記録する。             |
| ④ 支持地盤  | 搅拌混合回数又は掘進・引き上げ速度         | スーパーシステムによる施工管理又は速度計で計測し、記録する。             |
|         | 仕事量又は掘進速度・オーガー電流値（又はトルク値） | スーパーシステムによる施工管理又は速度計・電流計（又はトルク計）で計測し、記録する。 |

(2) コラムの芯ズレ

コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、合格とする。

(3) 施工の立会い

建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立合うものとする。

## 9. 品質検査

(1) 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数

- |   |
|---|
| ① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。   |
| ② 検査対象層は 盛土 、 砂・砂礫 、 であります。設計対象層を 盛土 とする。<br>設計対象層の平均強度は他の検査対象層の平均強度を超えないこと。<br>超えている場合は、最も低い平均強度の層を設計対象層とする。 |
| ③ 調査ヶ所数<br>頭部コア調査100本に1ヶ所とする。<br>深度コア調査100本に1ヶ所とする。   |

(2) 合否の判定

- |  |
|--|
| ① 設計対象層についての抜取ヶ所数をNとする。1抜取ヶ所当たり3個のコア供試体を採取し、その平均強度をその抜取ヶ所の強度とする。 |
| ② 一軸圧縮強度は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。                               |
| ③ 検査手法は検査手法A（品質のバラツキを想定する場合の検査手法）による。                            |
| ④ 検査手法Aによる品質検査   |

合否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取ヶ所）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$X_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$

$X_N$  : Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (N/mm<sup>2</sup>, kN/m<sup>2</sup>)

$X_L$  : 合格判定値 (N/mm<sup>2</sup>, kN/m<sup>2</sup>)

$F_c$  : 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>, kN/m<sup>2</sup>)

$k_a$  : 合格判定係数

$\sigma_d$  : 想定したコア強度の標準偏差 (N/mm<sup>2</sup>, kN/m<sup>2</sup>) であり、  $\sigma_d = V_d \cdot \bar{q}_{ud}$

$V_d$  : 変動係数、品質確認書により想定する  
 $\bar{q}_{ud}$  : 想定した平均一軸圧縮強さ (N/mm<sup>2</sup>, kN/m<sup>2</sup>)

抜取ヶ所数N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 $k_a$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

## 10. 報告

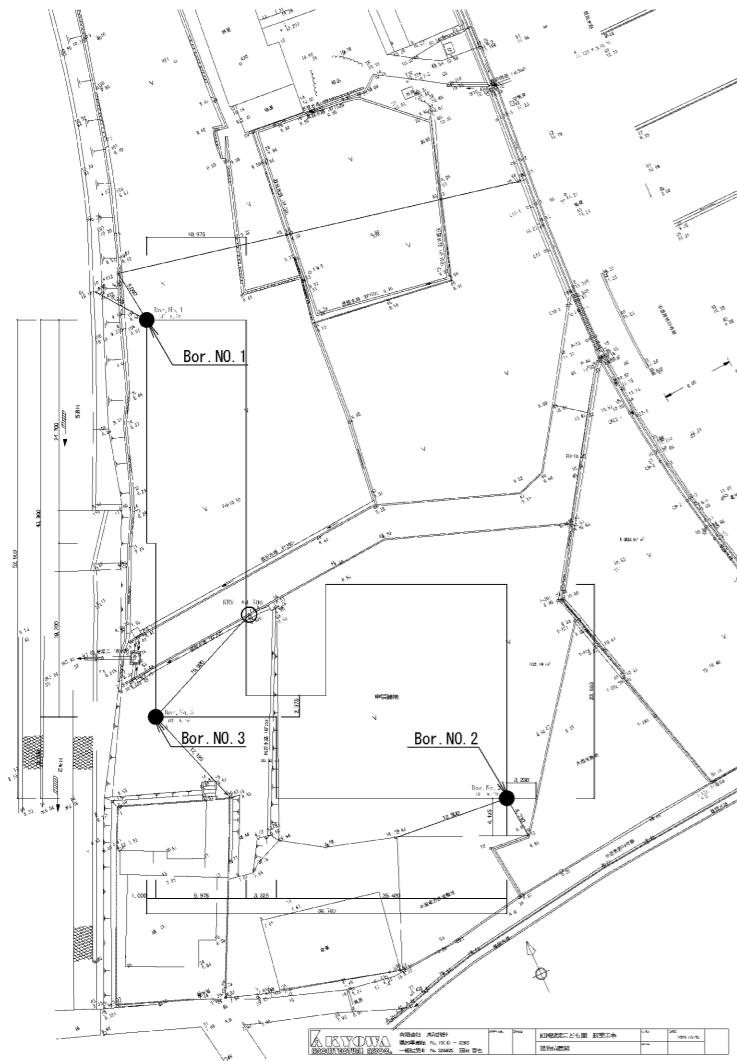
工事完了後、次の事項について施工報告書をまとめ、監督員に提出する。

- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| ① コラムの伏図及び番号       | ⑥ 仕事量又は掘進速度及び電流値（又はトルク値） |
| ② コラムの施工日          | ⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量        |
| ③ コラムの径及び実施コラム長    | ⑧ 合否の判定結果                |
| ④ 掘削深度（実施コラム長+空掘長） | ⑤ 搅拌混合回数又は掘進速度及び引き上げ速度   |

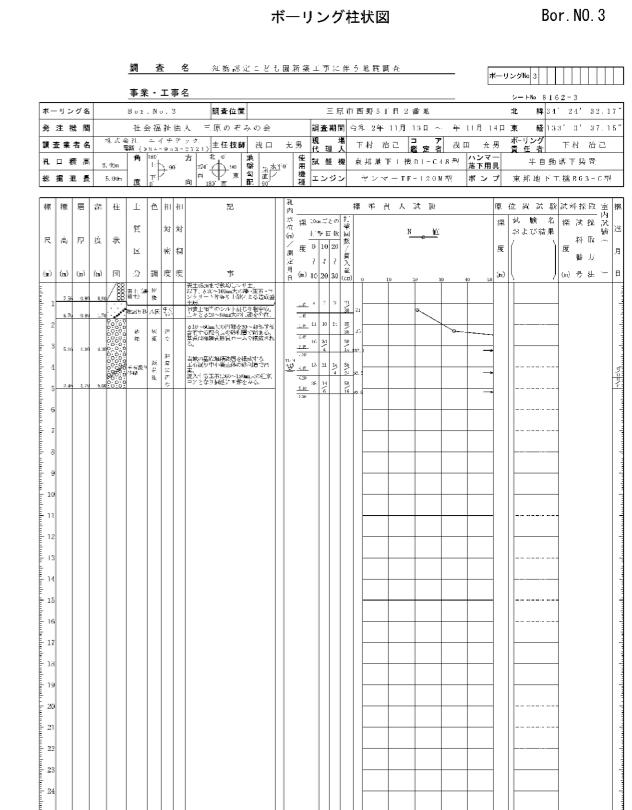
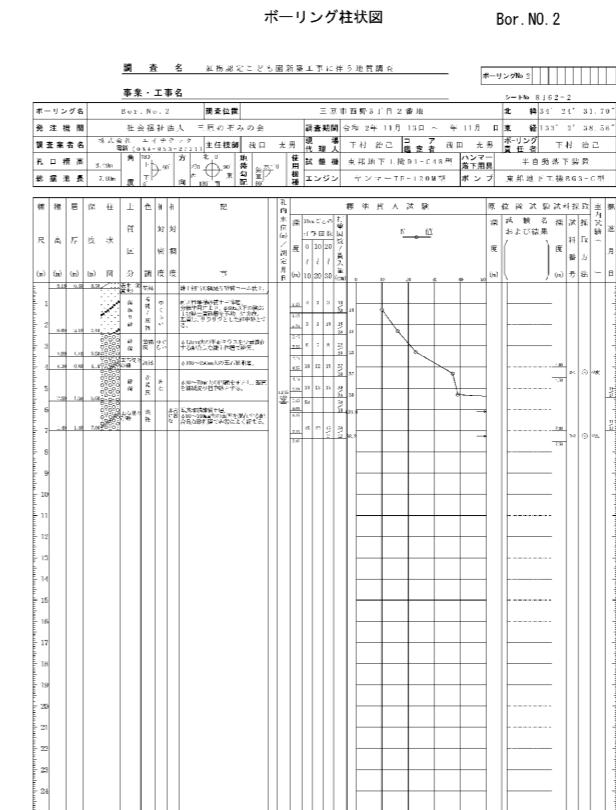
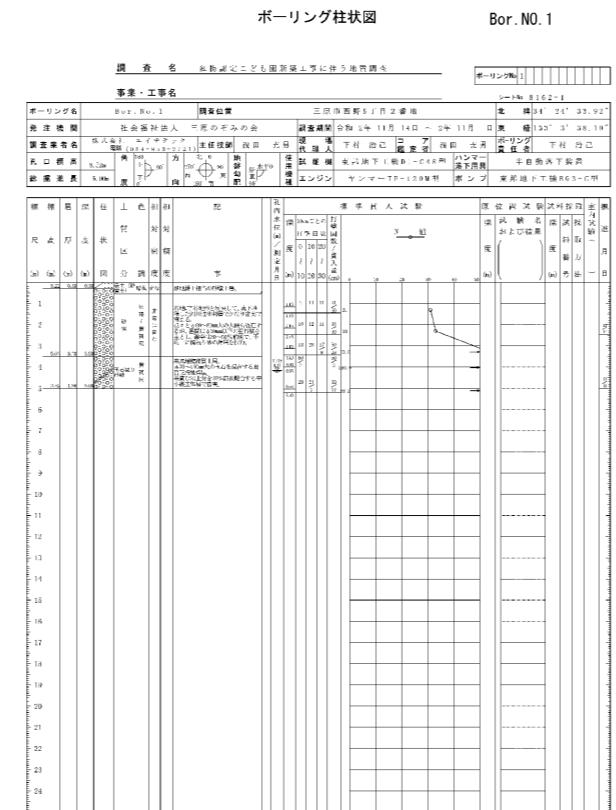
## 11. その他

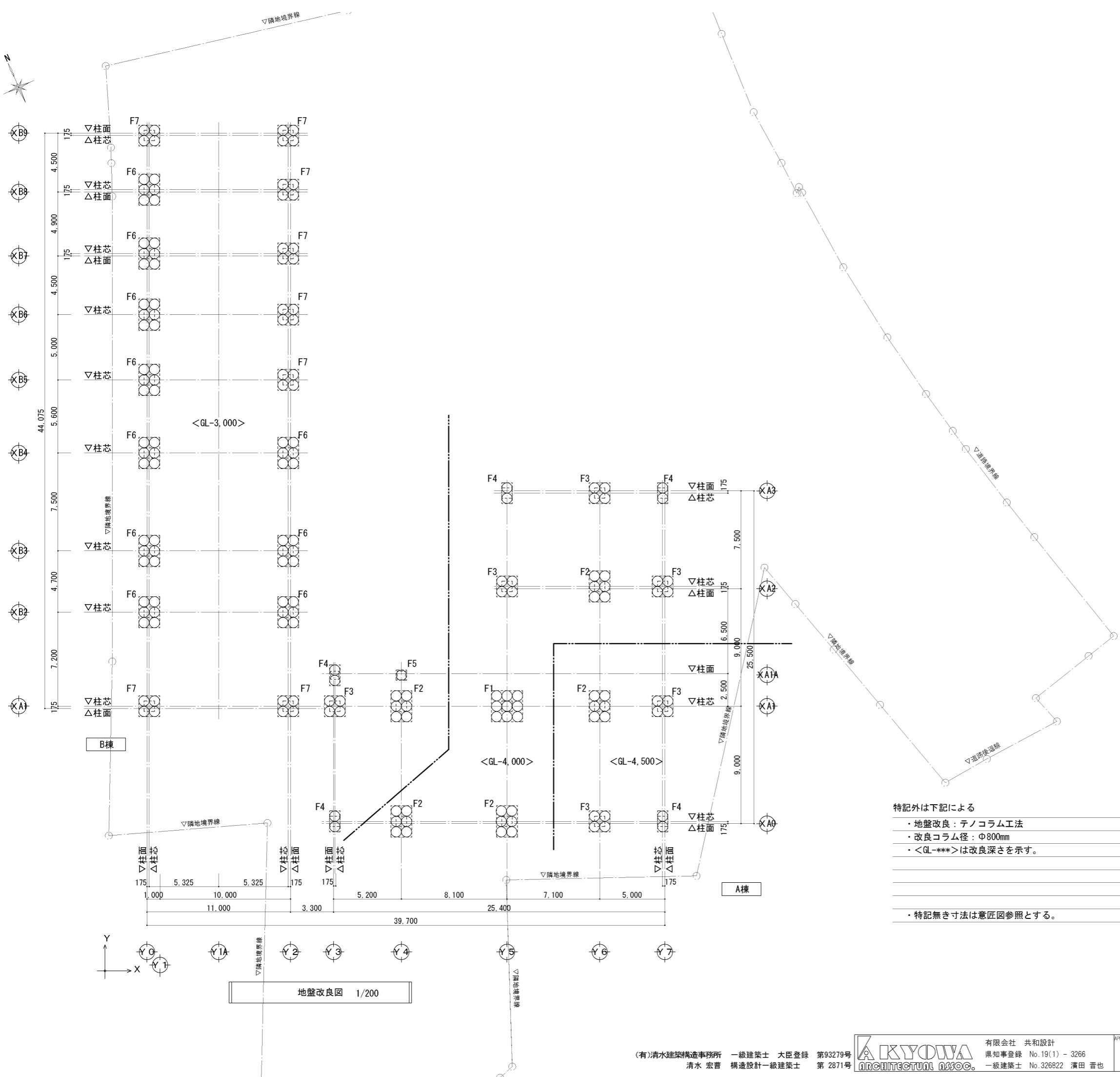
施工にあたっては、セメント系固化材等を使用した改良土の六価クロム溶出試験を実施し、環境庁告示46号の土壤環境基準値（検液1Lにつき0.05mg）以下であるかを確認する。  
試験方法は、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」の一部変更についてによる。

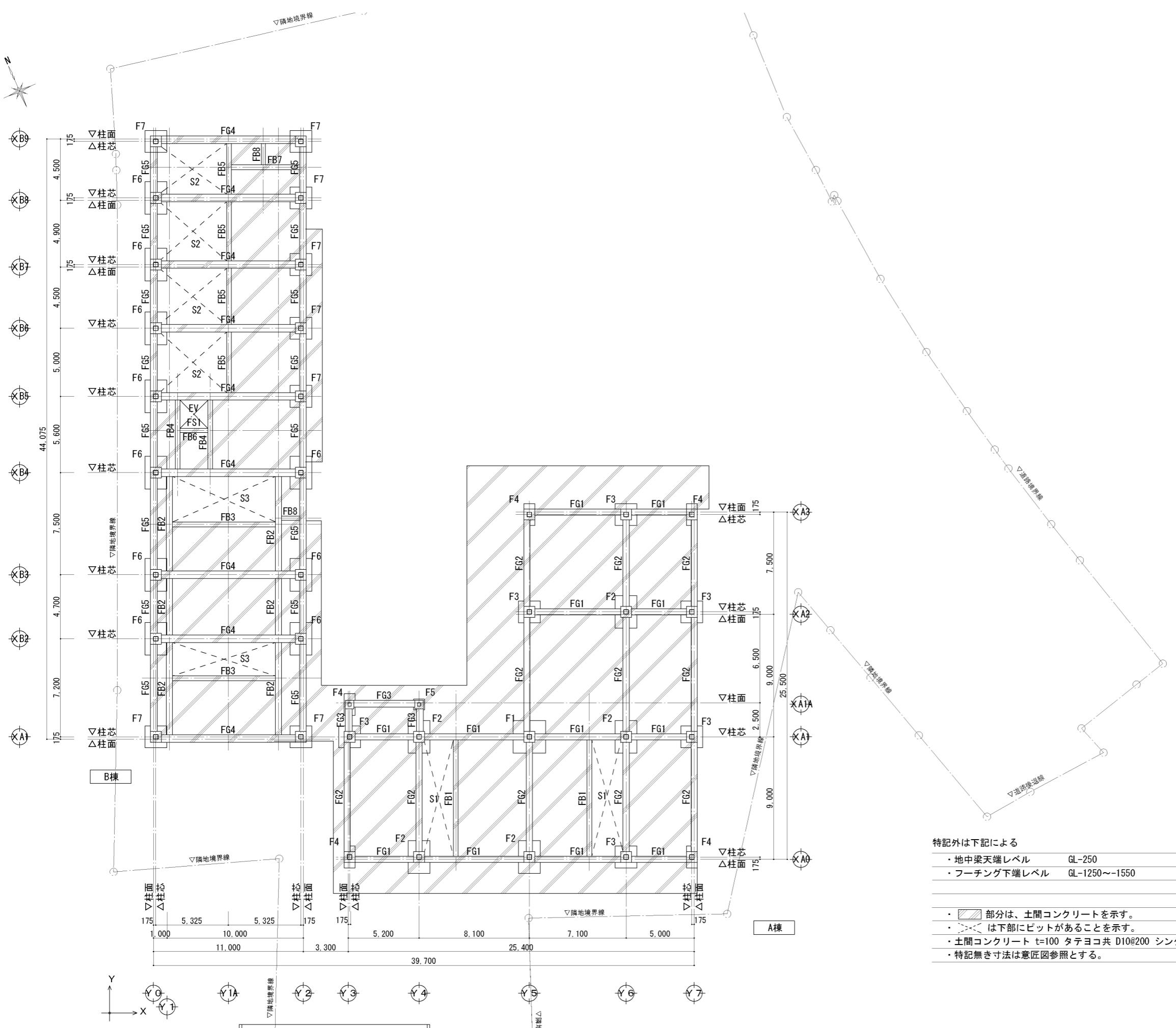
試験方法及び試験の個数：配合設計の段階で実施する環境庁告示46号溶出試験、1検体



地盤調査位置図

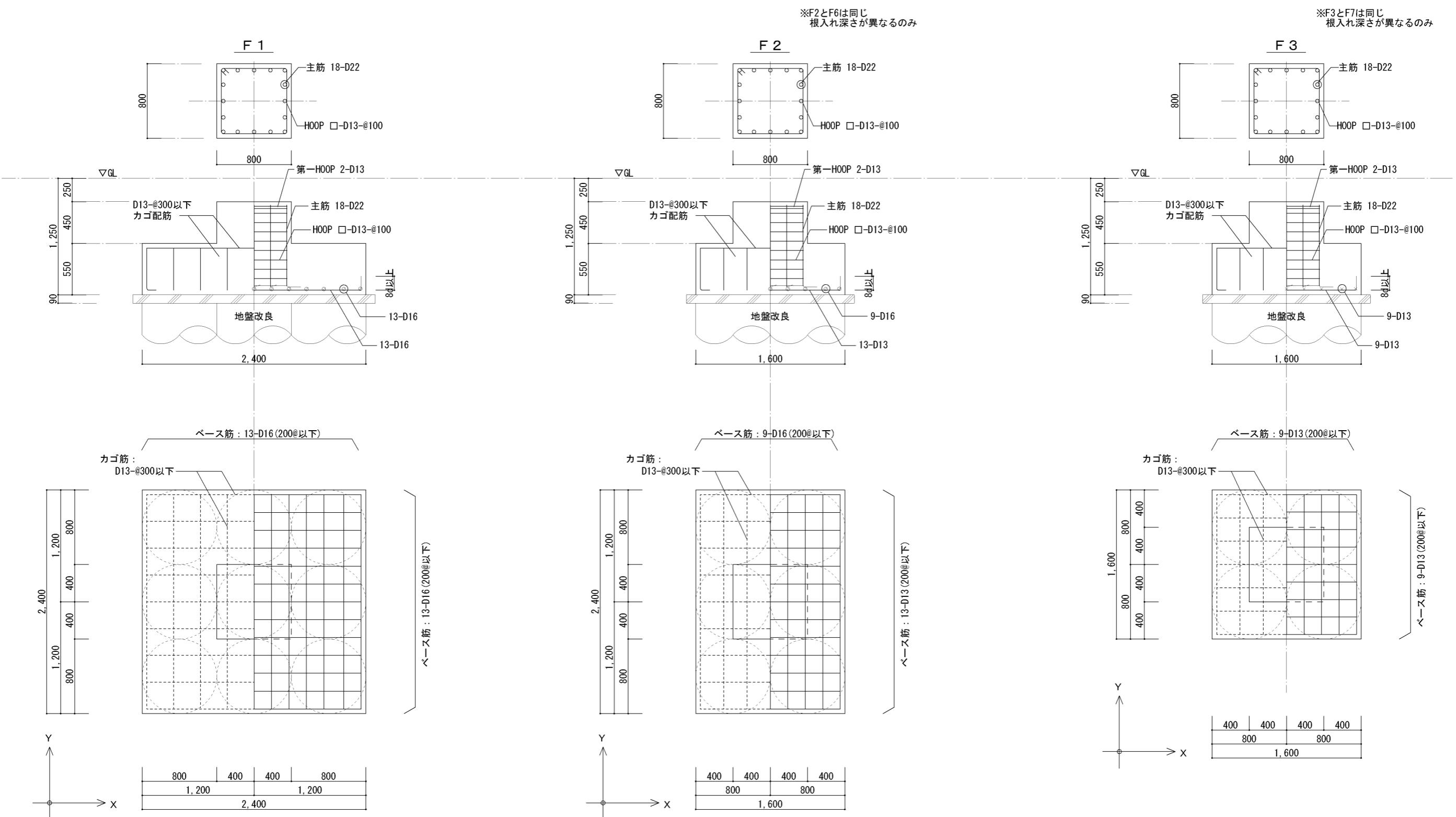






特記外は下記による

- ・地中梁天端レベル GL-250
- ・フーチング下端レベル GL-1250～-1550
- ・△柱面部分は、土間コンクリートを示す。
- ・△柱芯は下部にピットがあることを示す。
- ・土間コンクリート t=100 タテヨコ共 D10@200 シングル
- ・特記無き寸法は意匠図参照とする。



基礎 詳 細 図 1/30

特記外は下記による

・柱状改良については柱状改良伏図参照のこと。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

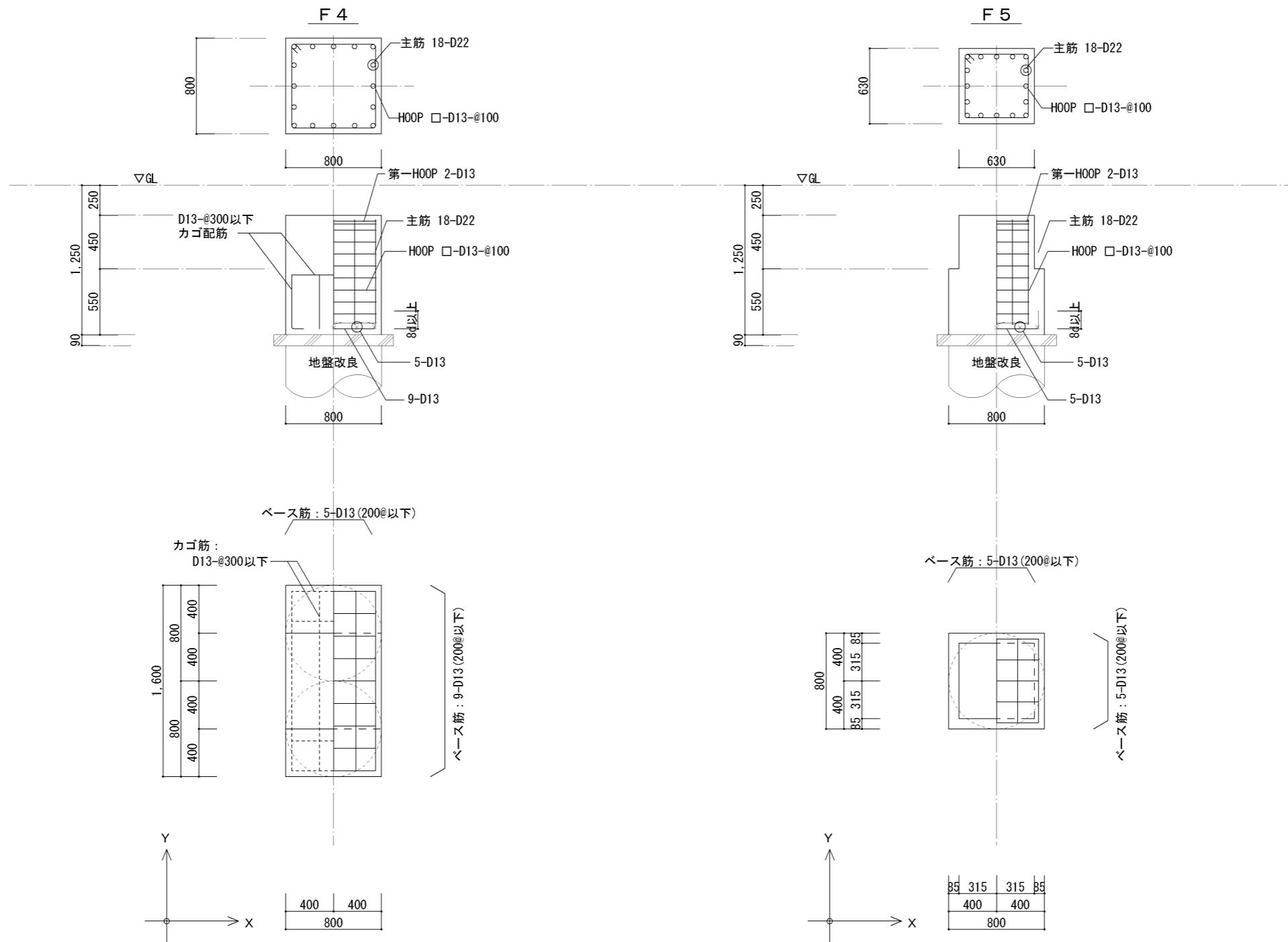
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



基礎 詳細 図 1/30

特記外は下記による

・柱状改良については柱状改良伏図参照のこと。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

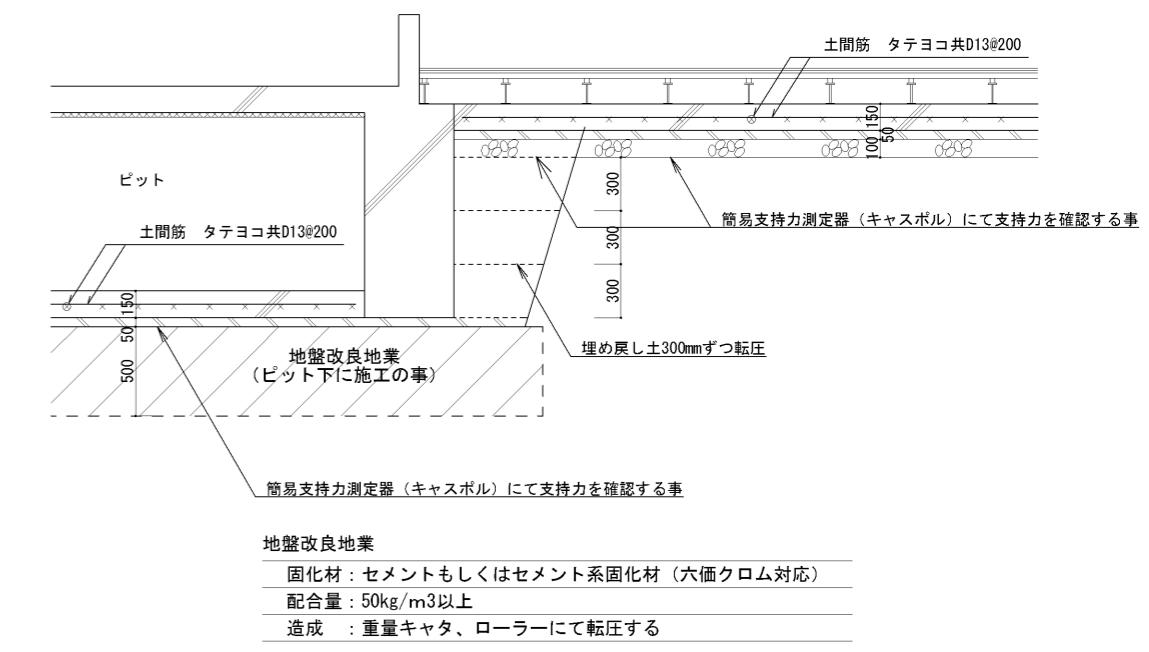
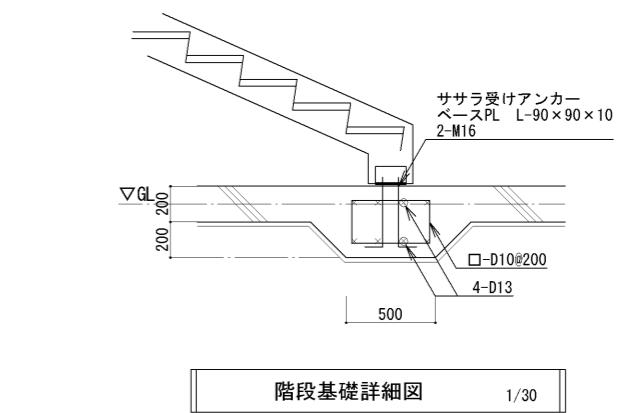
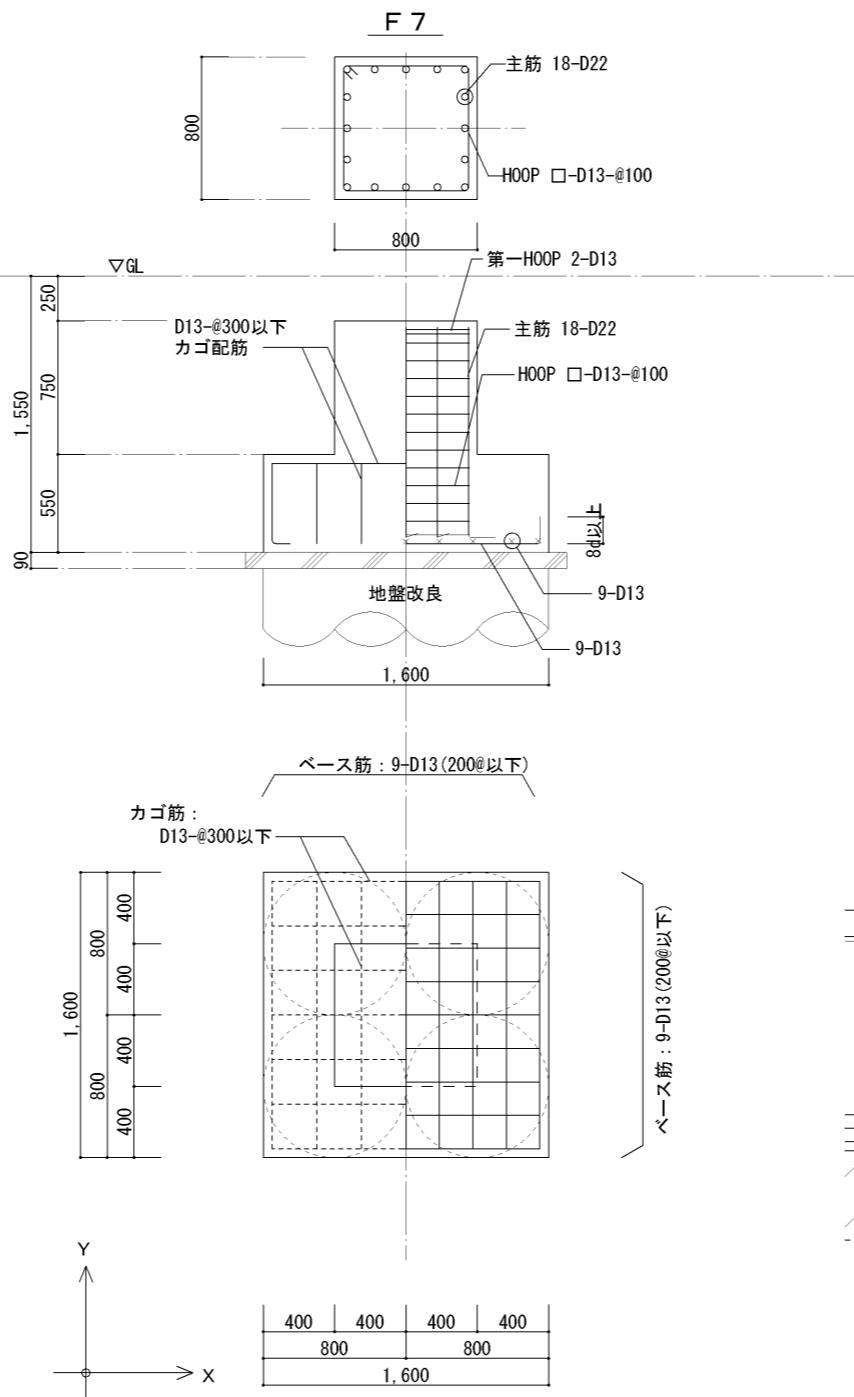
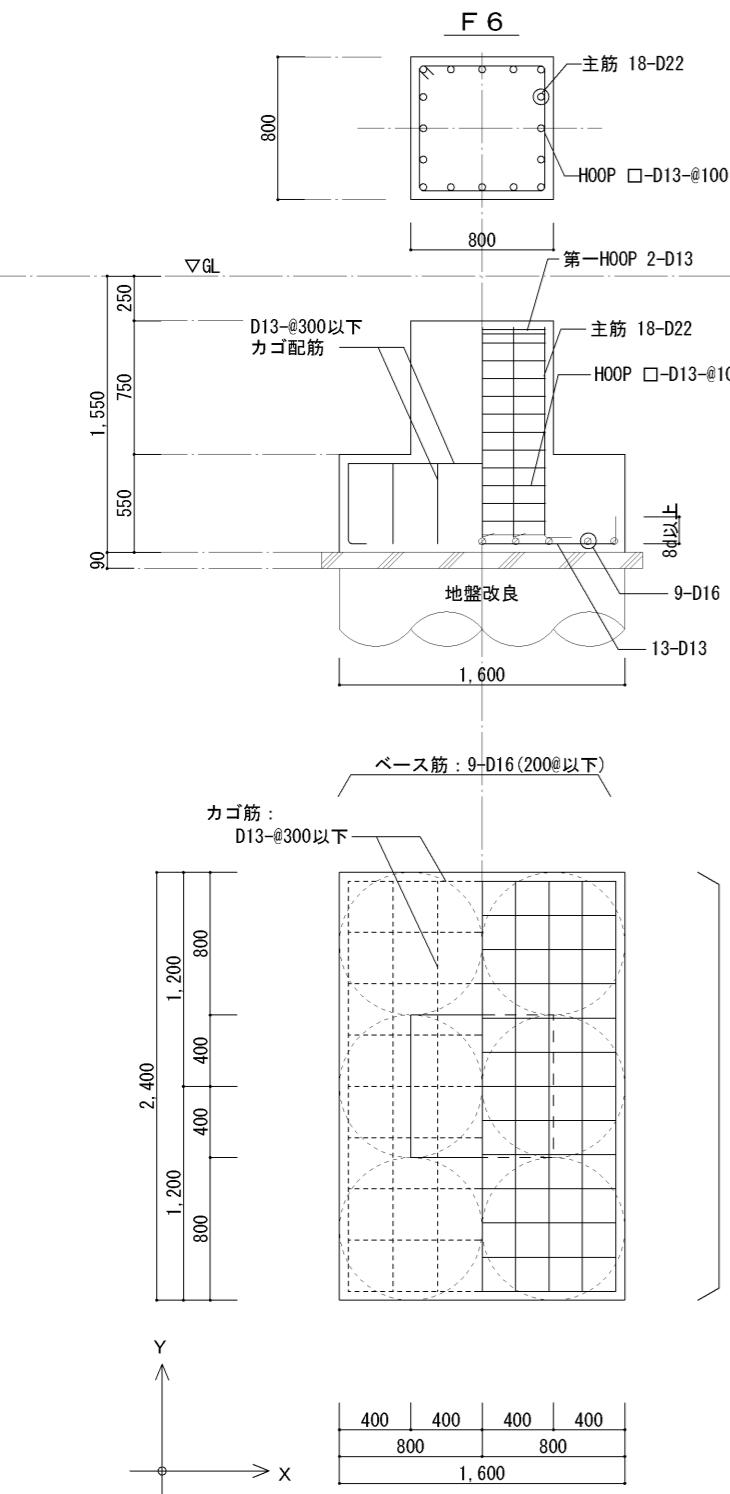
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

※F2とF6は同じ  
根入れ深さが異なるのみ

※F3とF7は同じ  
根入れ深さが異なるのみ



基礎 詳 細 図 1/30

浅層地盤改良地業・土間配筋図 1/30

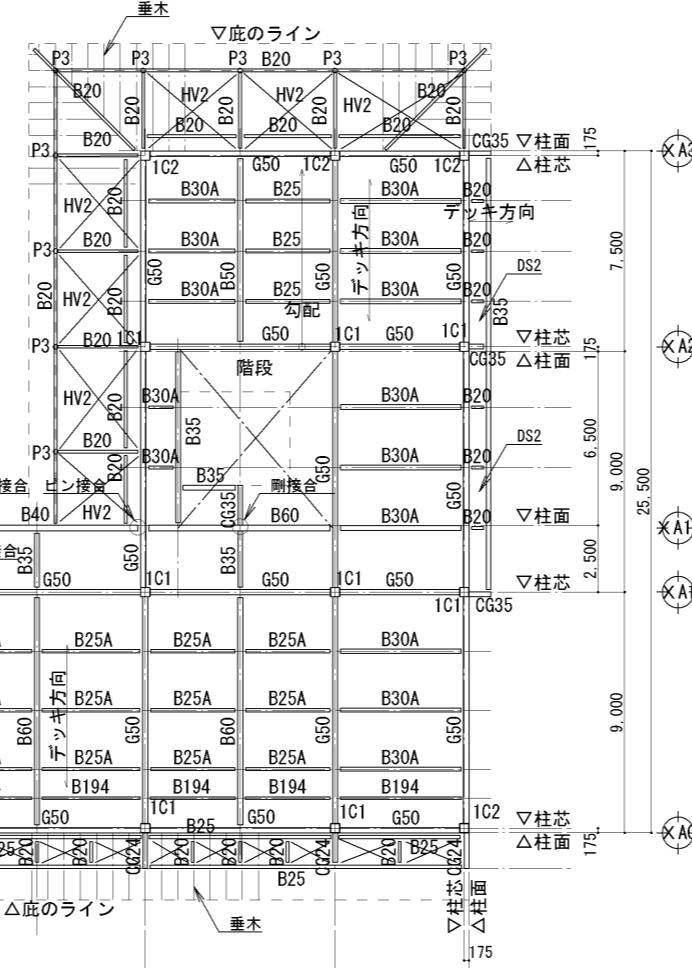
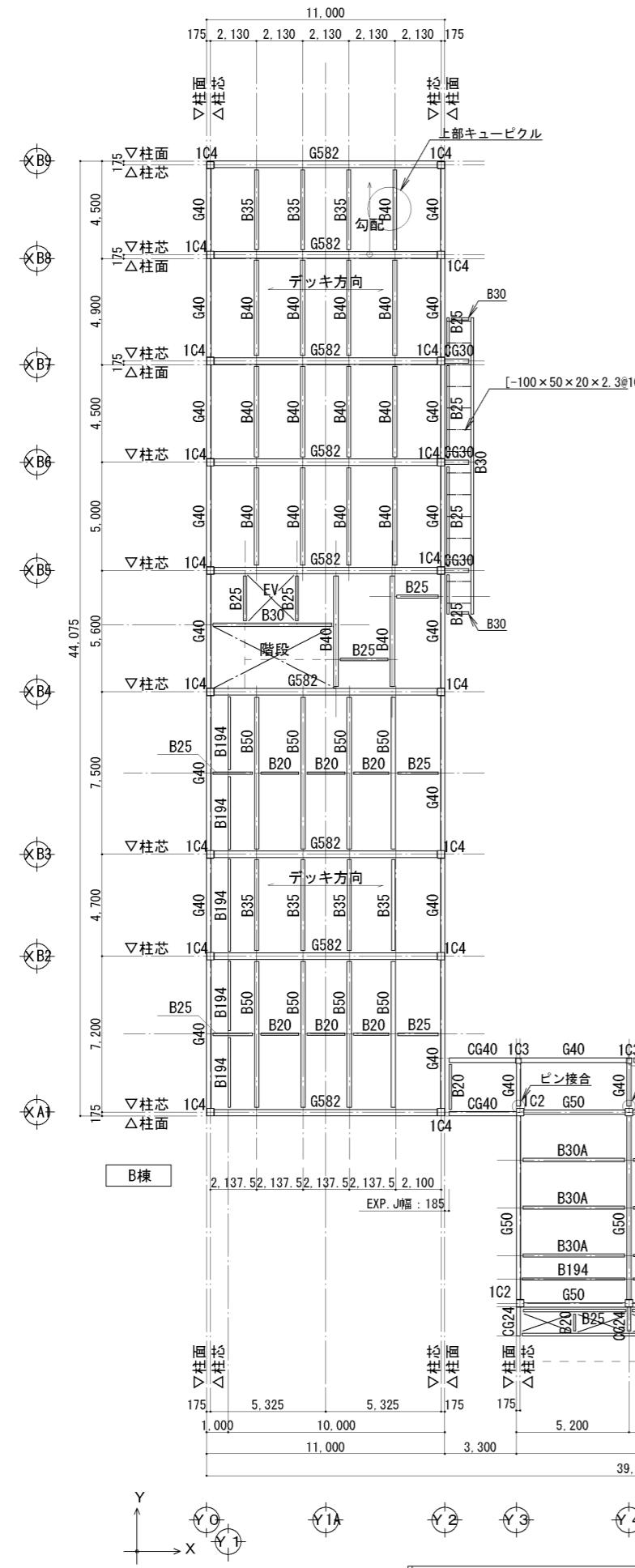
特記外は下記による

・柱状改良については柱状改良伏図参照のこと。

特記外は下記に依る  
・巾止め筋 D10- $\square$ -@1000

符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5
位置	全断面	全断面	全断面	両端 中央	全断面
断面					
上端筋	5-D25	5-D25	4-D25	5-D25	5-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25
腹筋	4-D13	4-D13	2-D13	6-D13	4-D13
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200

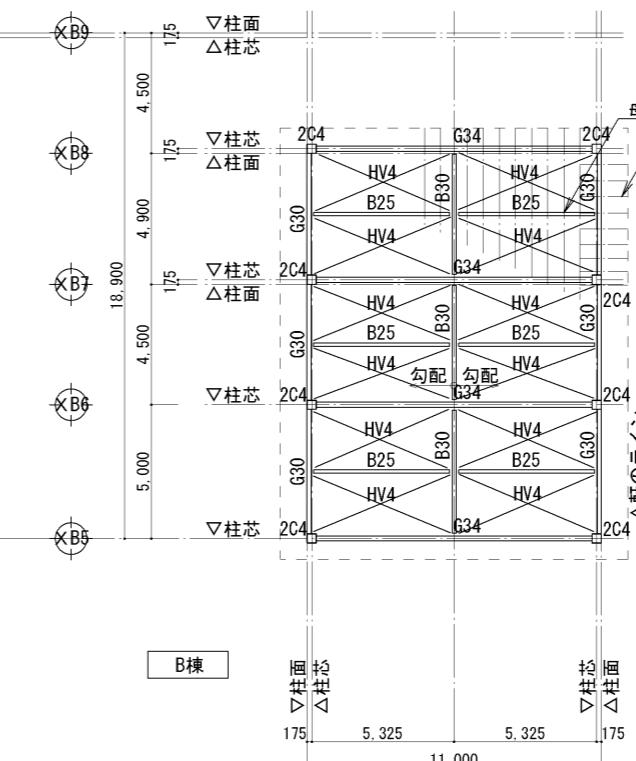
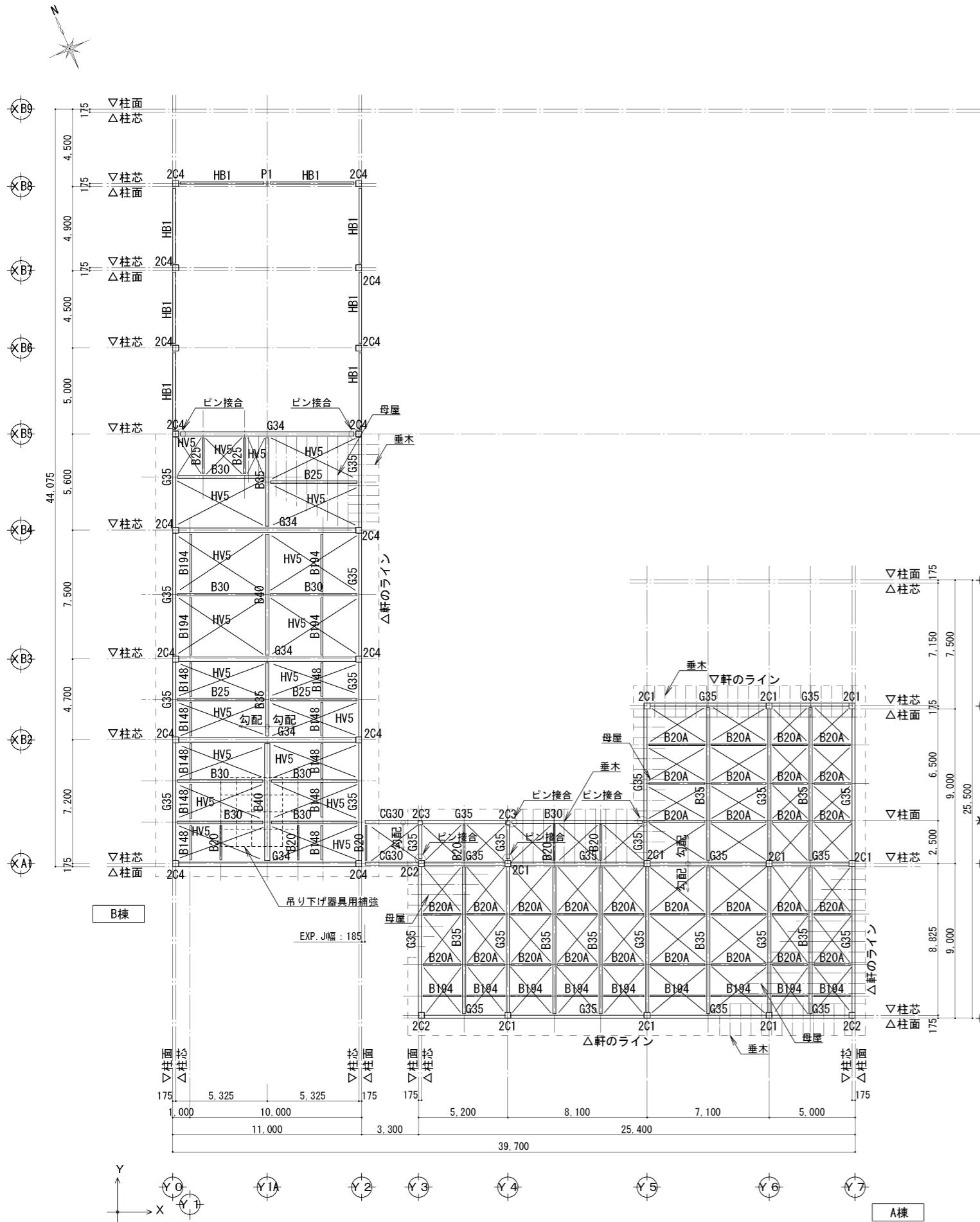
符号	FB1	FB2	FB3	FB4	FB5	FB6	FB7	FB8
位置	両端 中央	全断面	両端 中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D22	3-D22	3-D16
下端筋	4-D25	6-D25	5-D25	3-D25	4-D25	3-D22	2-D22	5-D22
腹筋	4-D13	4-D13	4-D13	2-D13	6-D10	2-D13	6-D10	2-D13
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200



特記外は下記による

- ・水平プレース : HV1
- ・デッキ : DS1

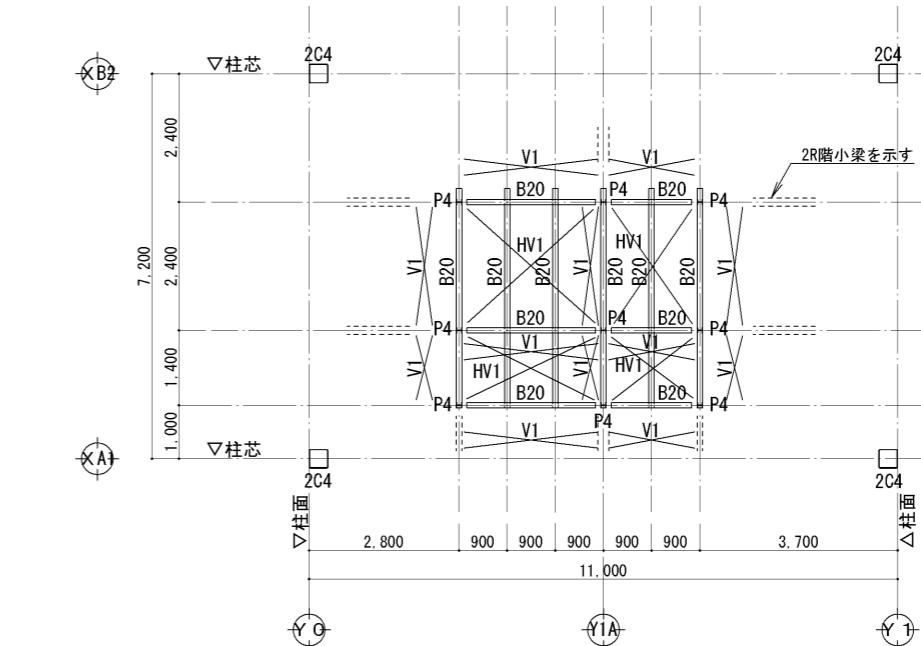
・特記無き寸法は意匠図参照とする。



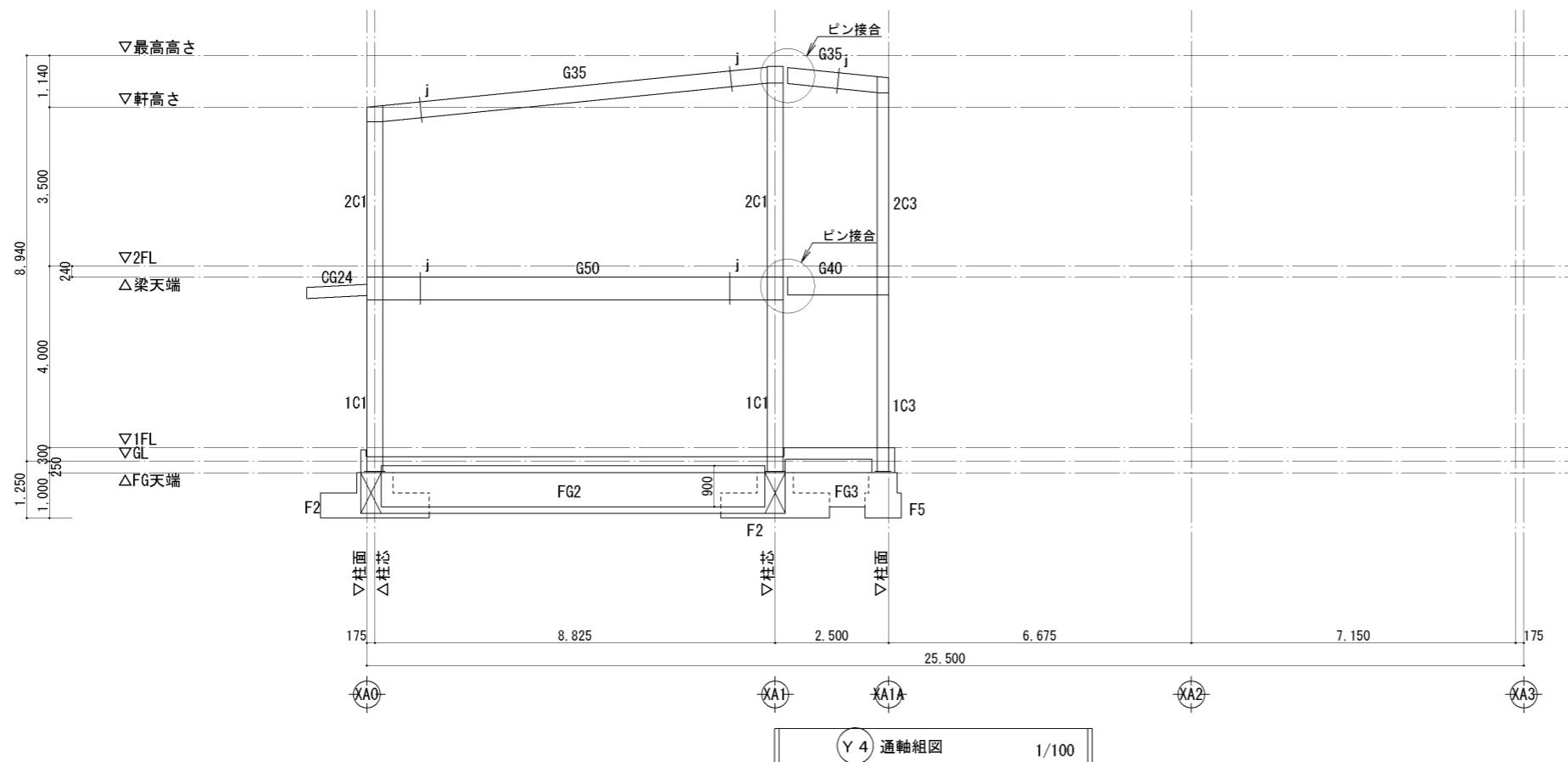
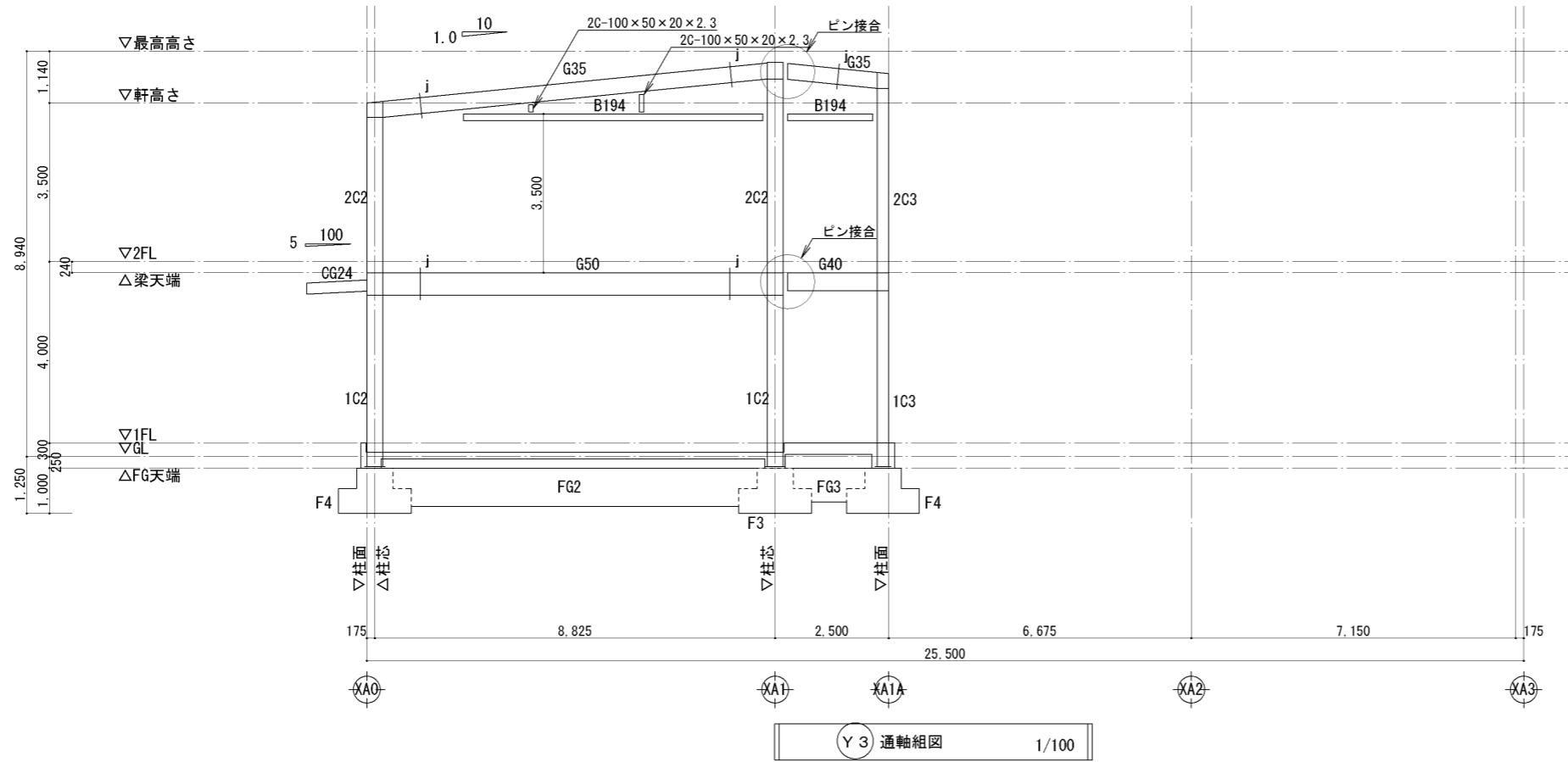
特記外は下記による

- ・屋根プレース : HV3
- ・特記無き寸法は意匠図参照とする

2階柱壁 R階梁伏図 1/200



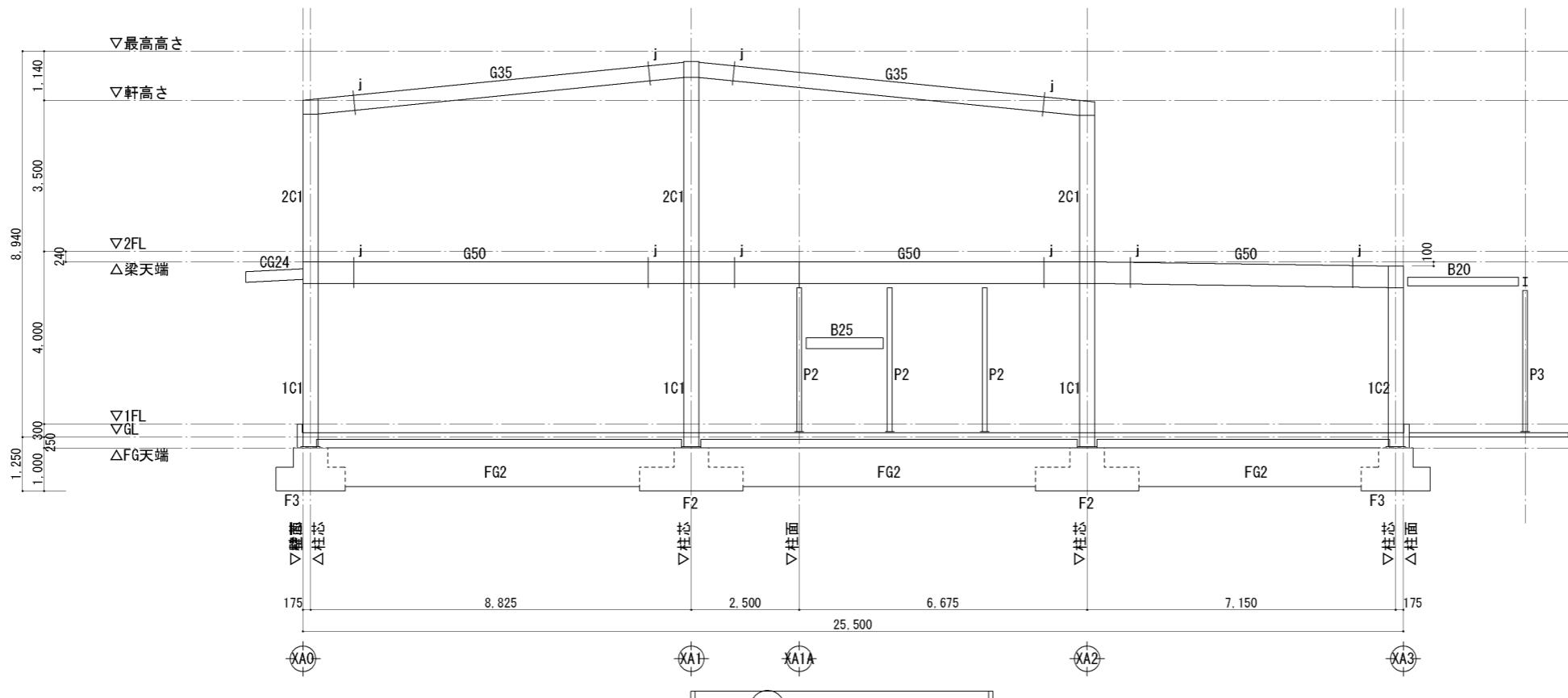
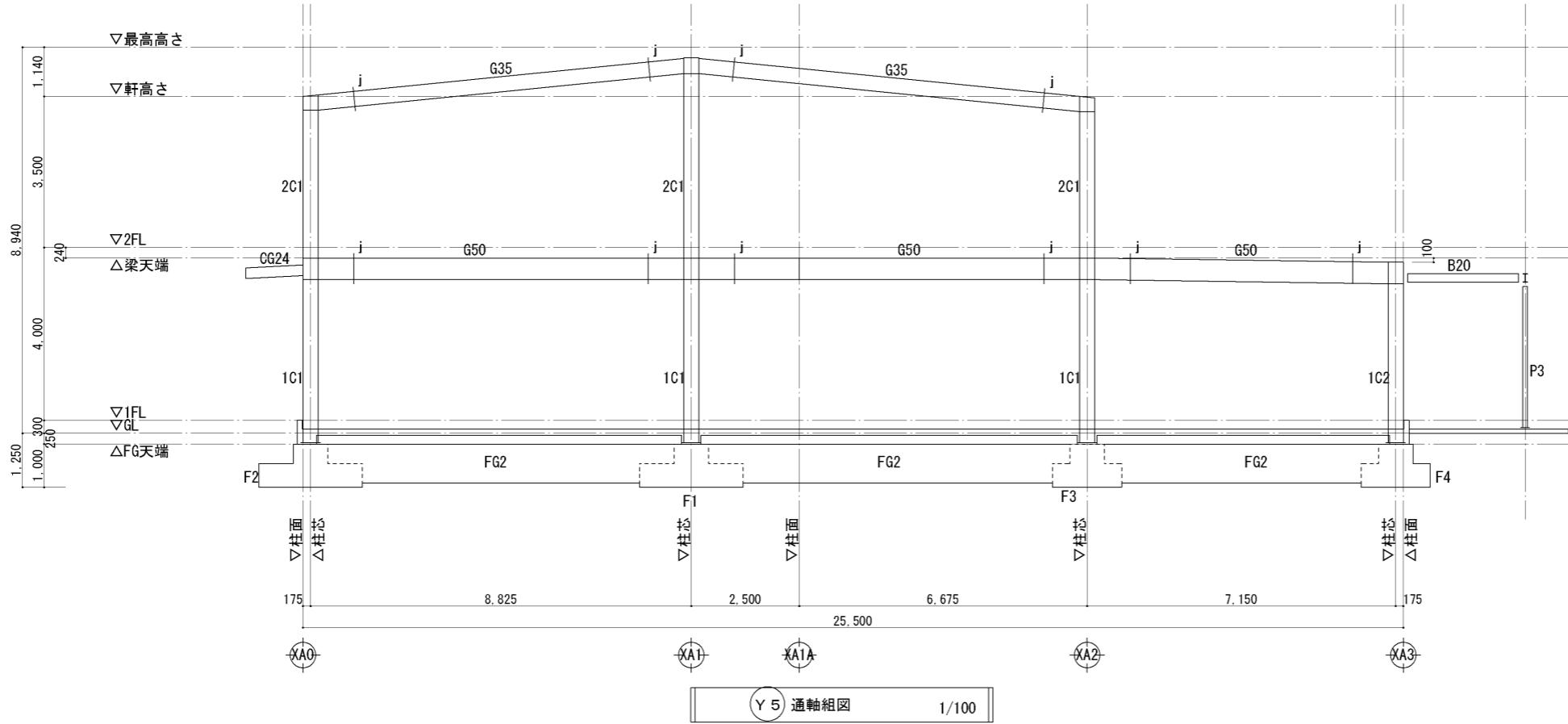
吊り下げ器具用補強伏図 1/100 <2FL+3000

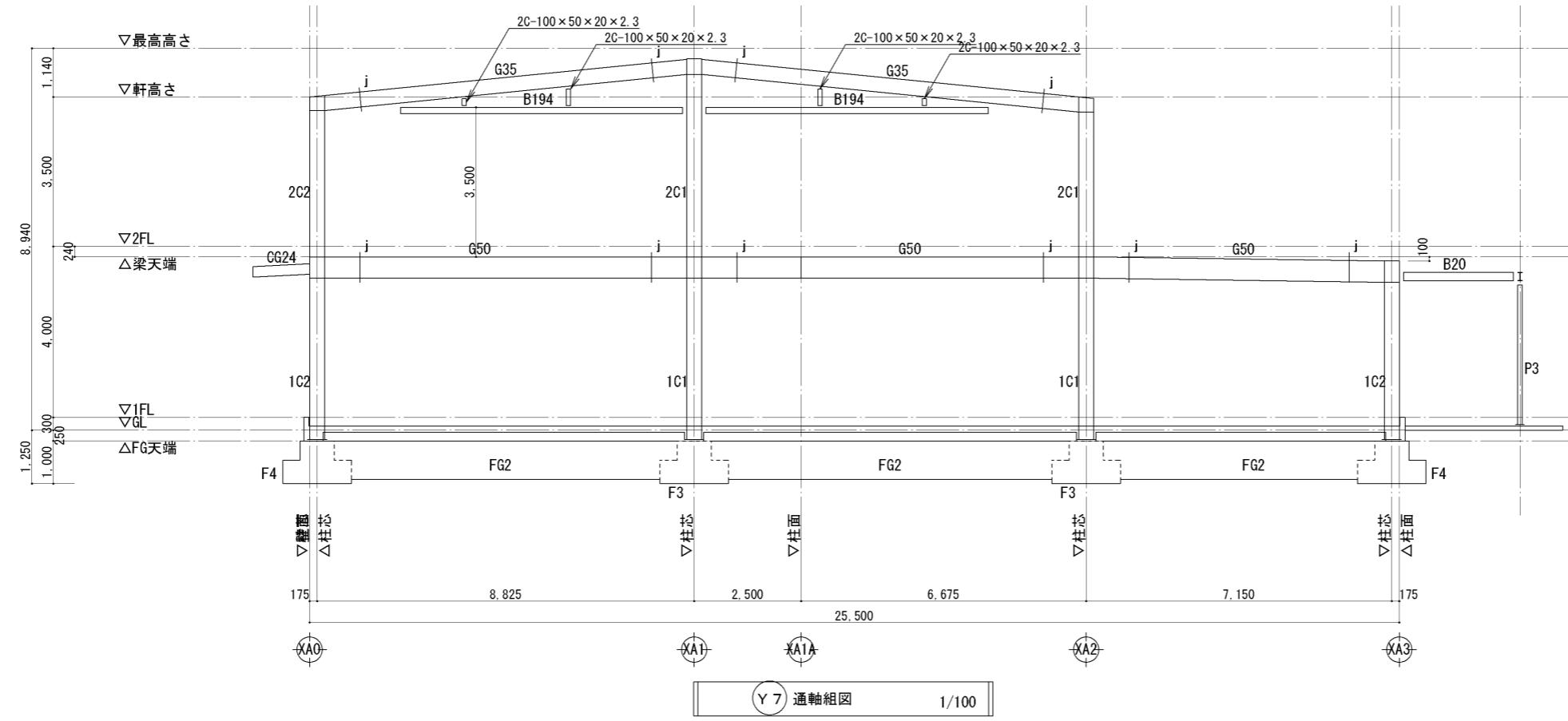


特記外は下記による

- ・BPL下端レベル GL-220
- ・地中梁天端レベル GL-250
- ・基礎フーチング下端レベル GL-1250
- ・大梁継手位置 柱芯から1000とする。
- ・特記無き寸法は意匠図参照とする。

A棟





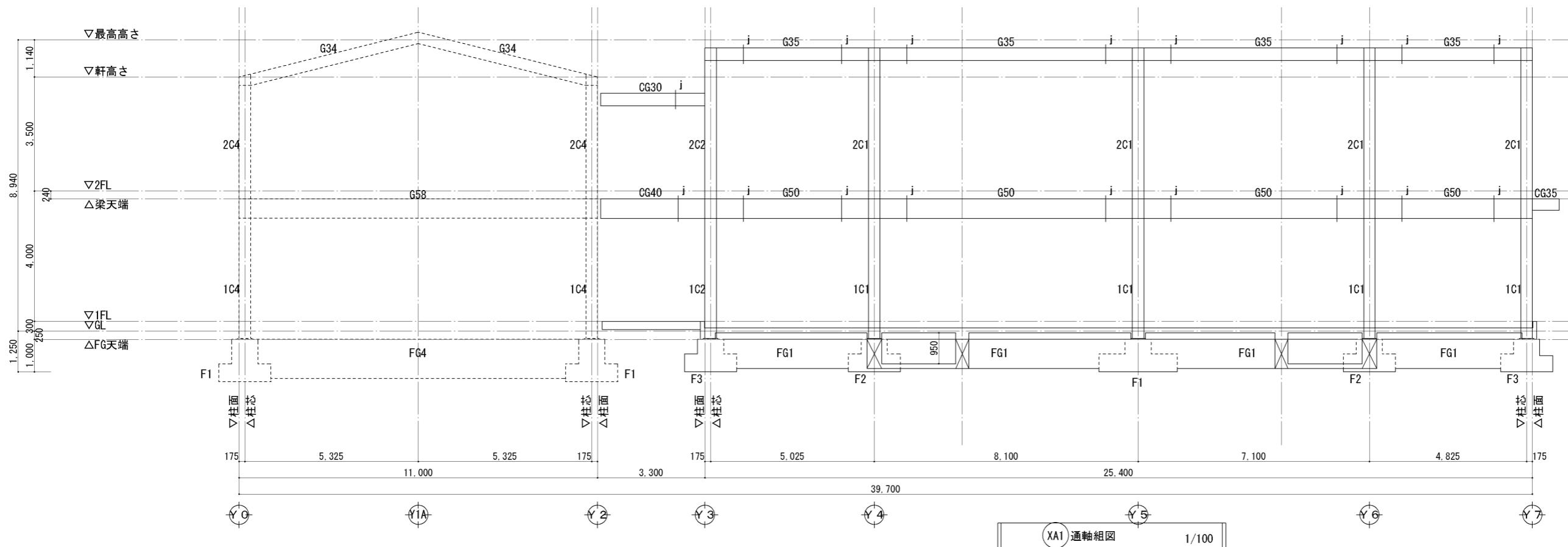
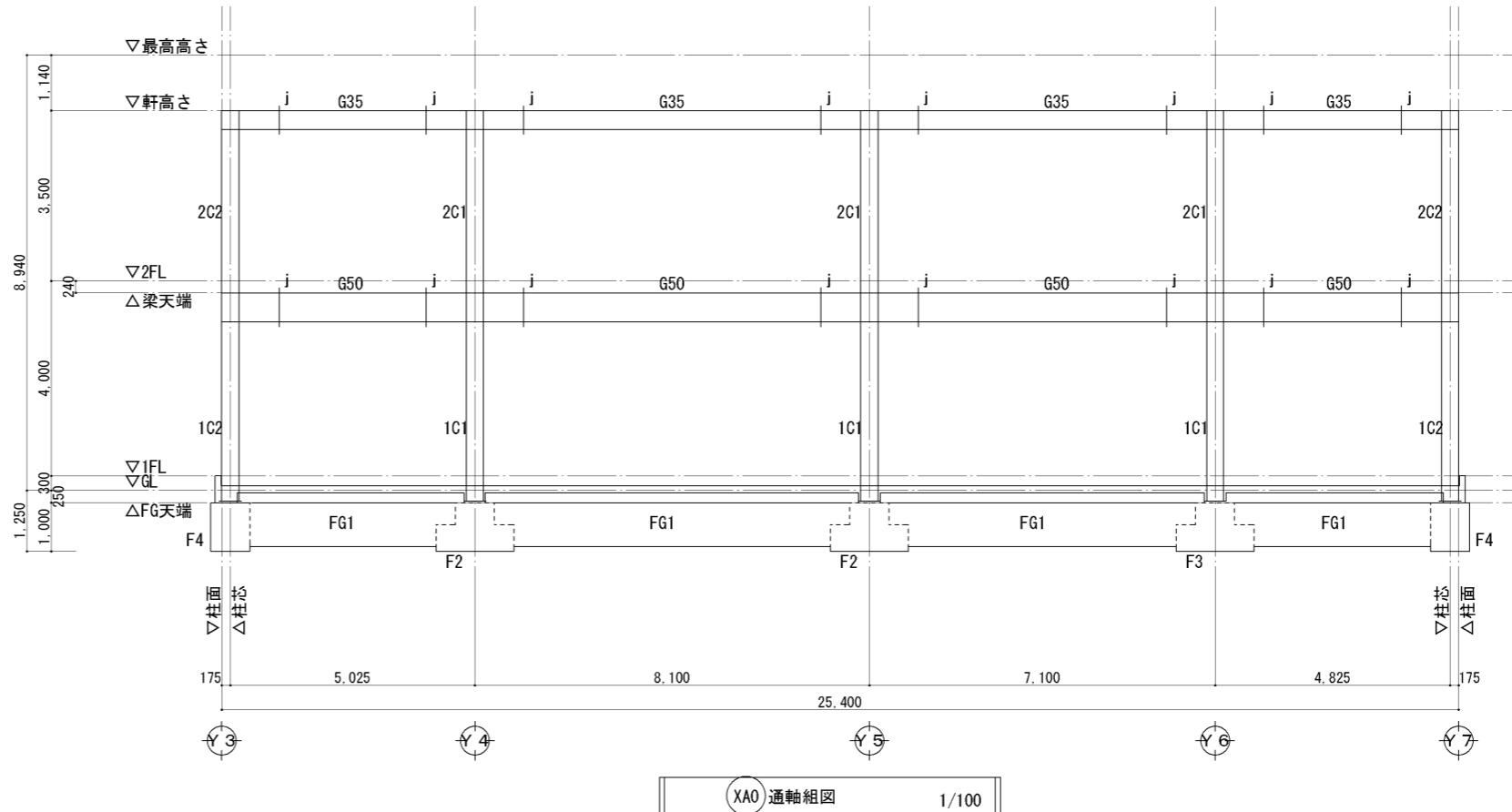
特記外は下記による

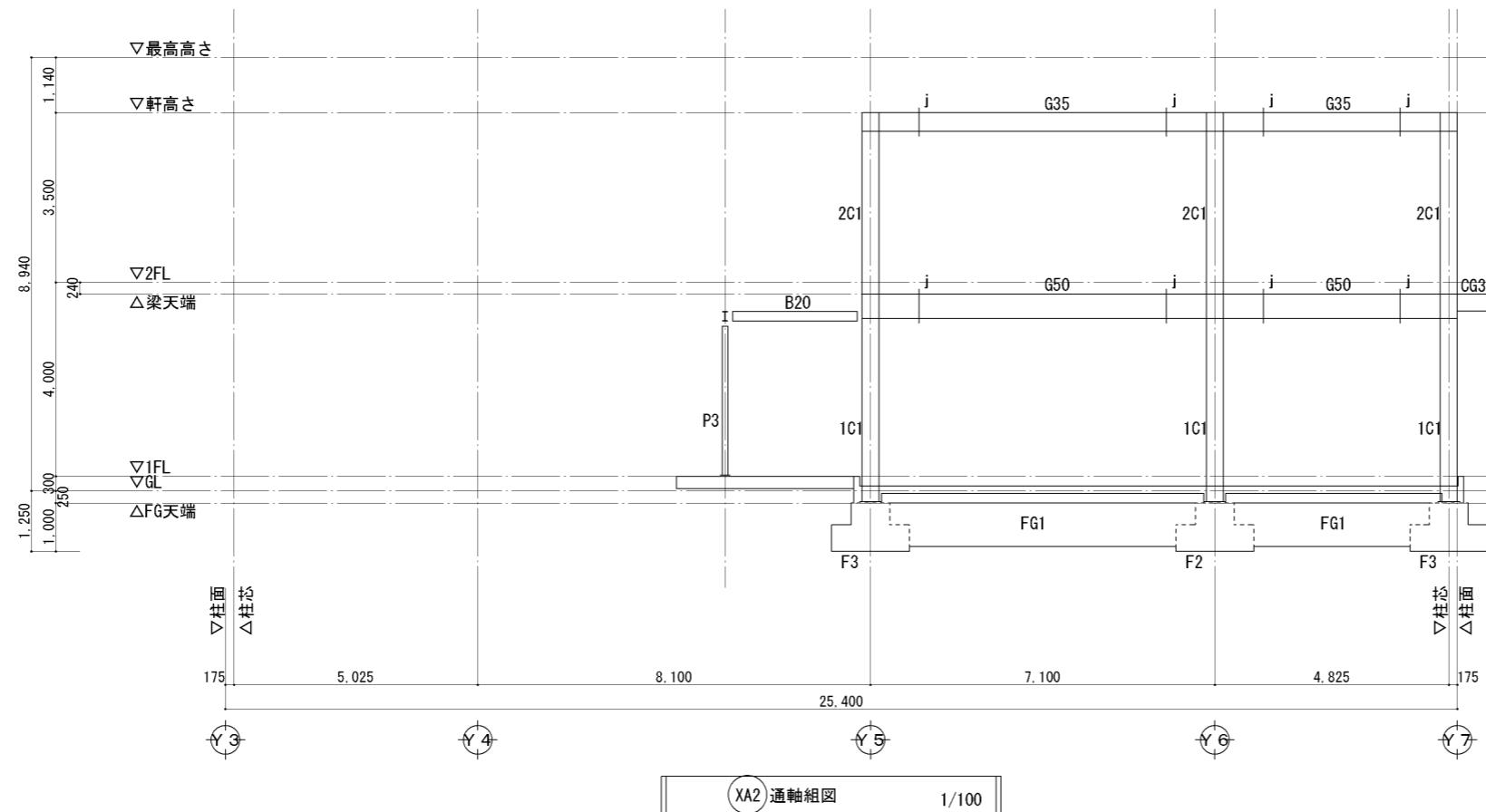
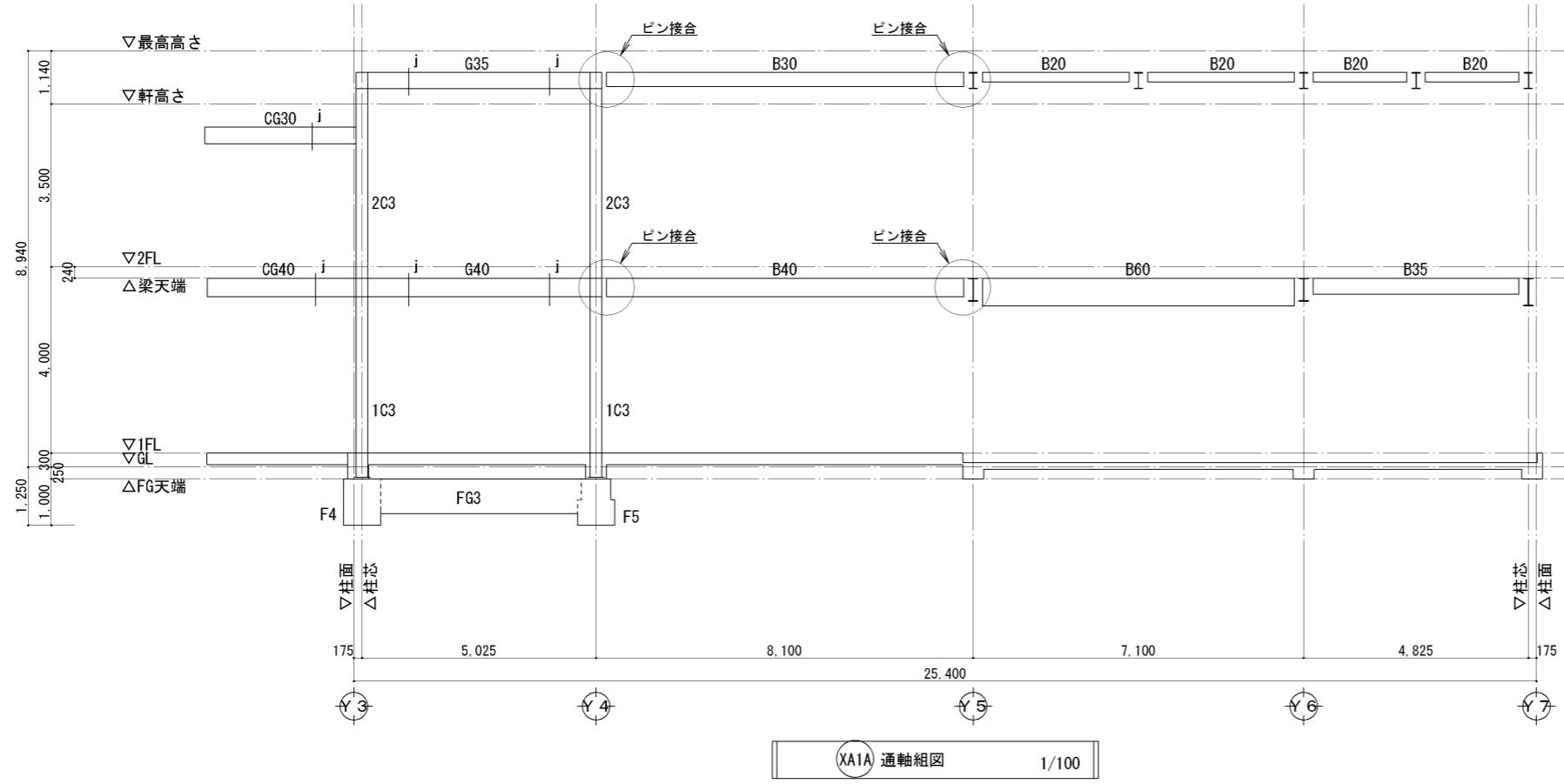
- ・BPL下端レベル GL-220
- ・地中梁天端レベル GL-250
- ・基礎フーチング下端レベル GL-1250
- ・大梁継手位置 柱芯から1000 とする。
- ・特記無き寸法は意匠図参照とする。

A棟

特記外は下記による

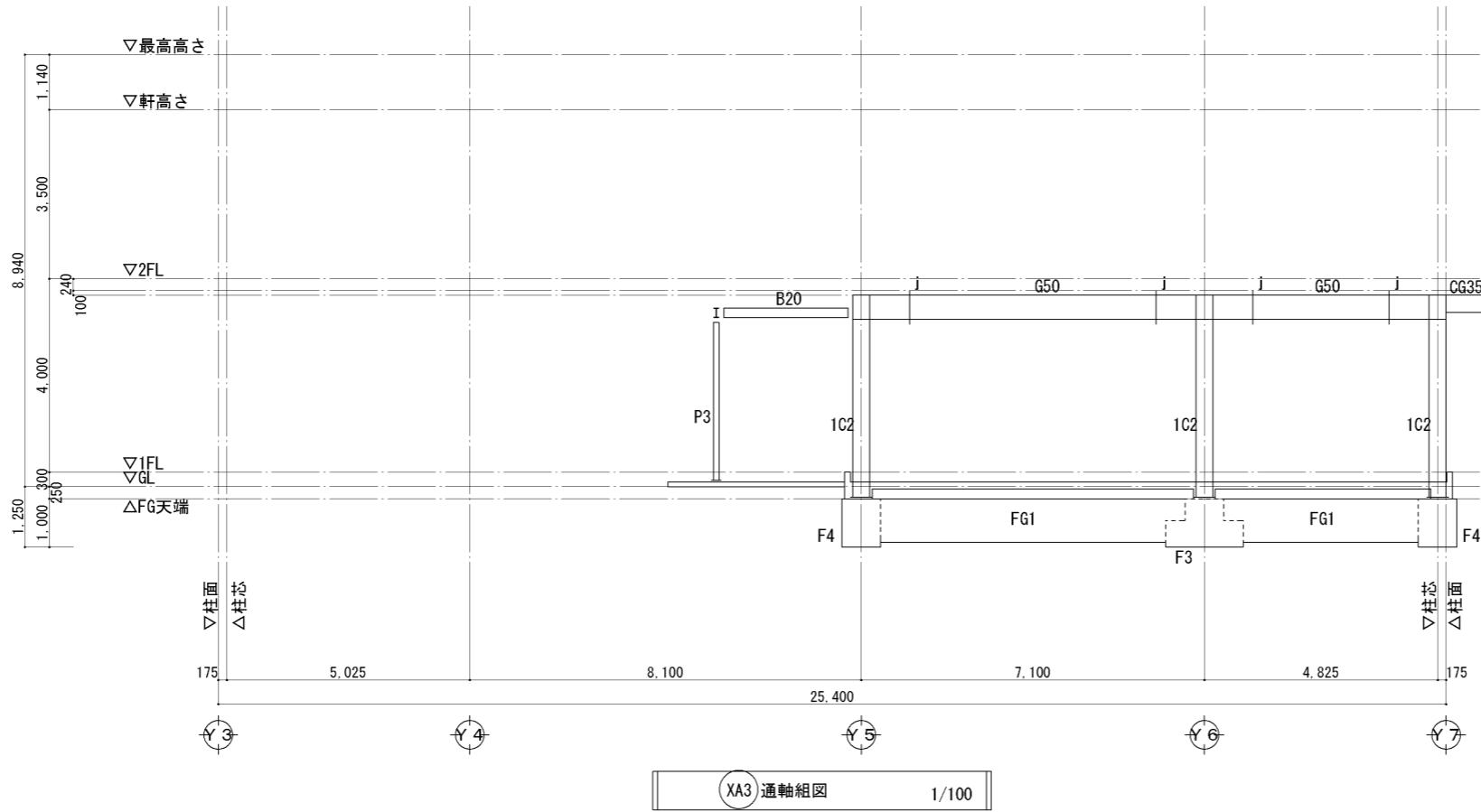
- ・BPL下端レベル GL-220
- ・地中梁天端レベル GL-250
- ・基礎フーチング下端レベル GL-1250
- ・大梁継手位置 柱芯から1000 とする。
- ・特記無き寸法は意匠図参照とする。





特記外は下記による  
 - BPL下端レベル GL-220  
 - 地中梁天端レベル GL-250  
 - 基礎フーチング下端レベル GL-1250  
 - 大梁継手位置 柱芯から1000とする。  
 - 特記無き寸法は意匠図参照とする。

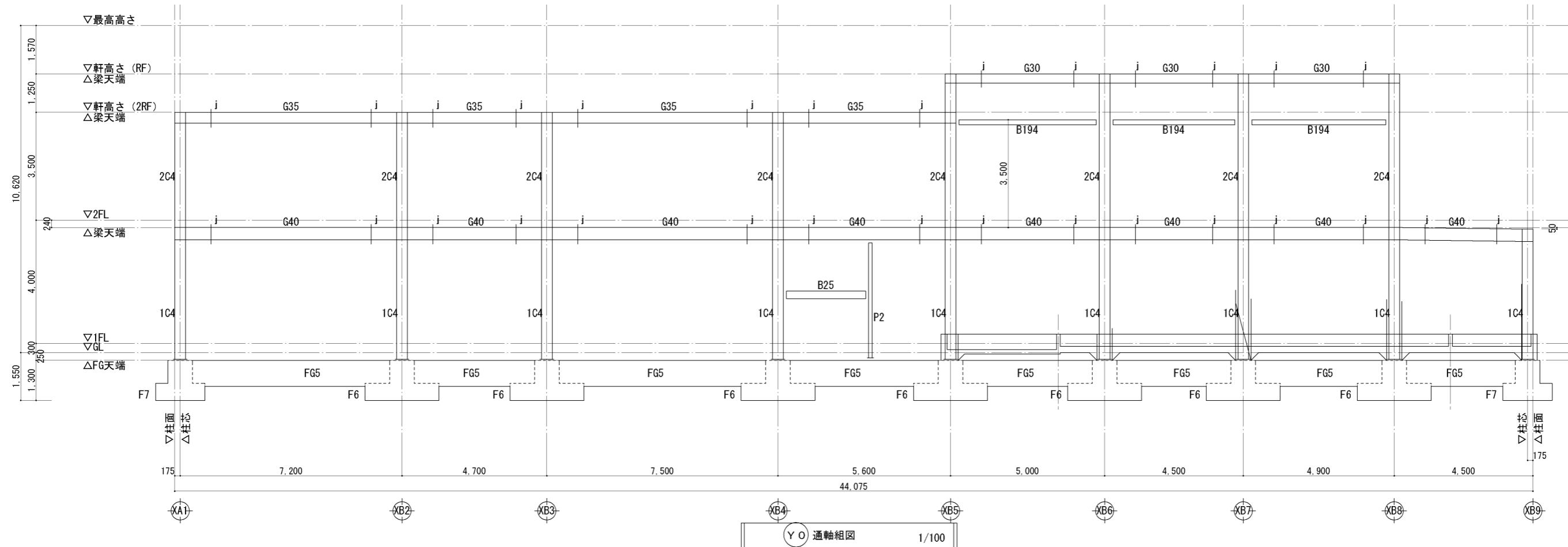
A棟



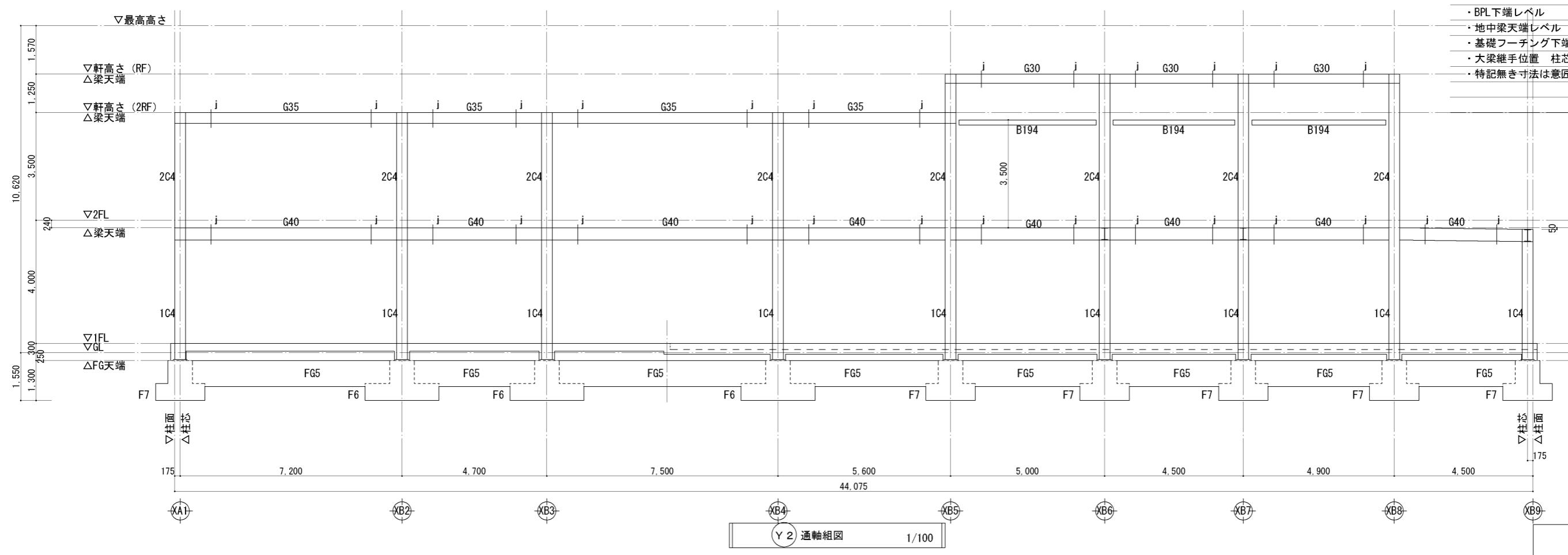
特記外は下記による

- ・BPL下端レベル GL-220
- ・地中梁天端レベル GL-250
- ・基礎フーチング下端レベル GL-1250
- ・大梁継手位置 柱芯から1000 とする。
- ・特記無き寸法は意匠図参照とする。

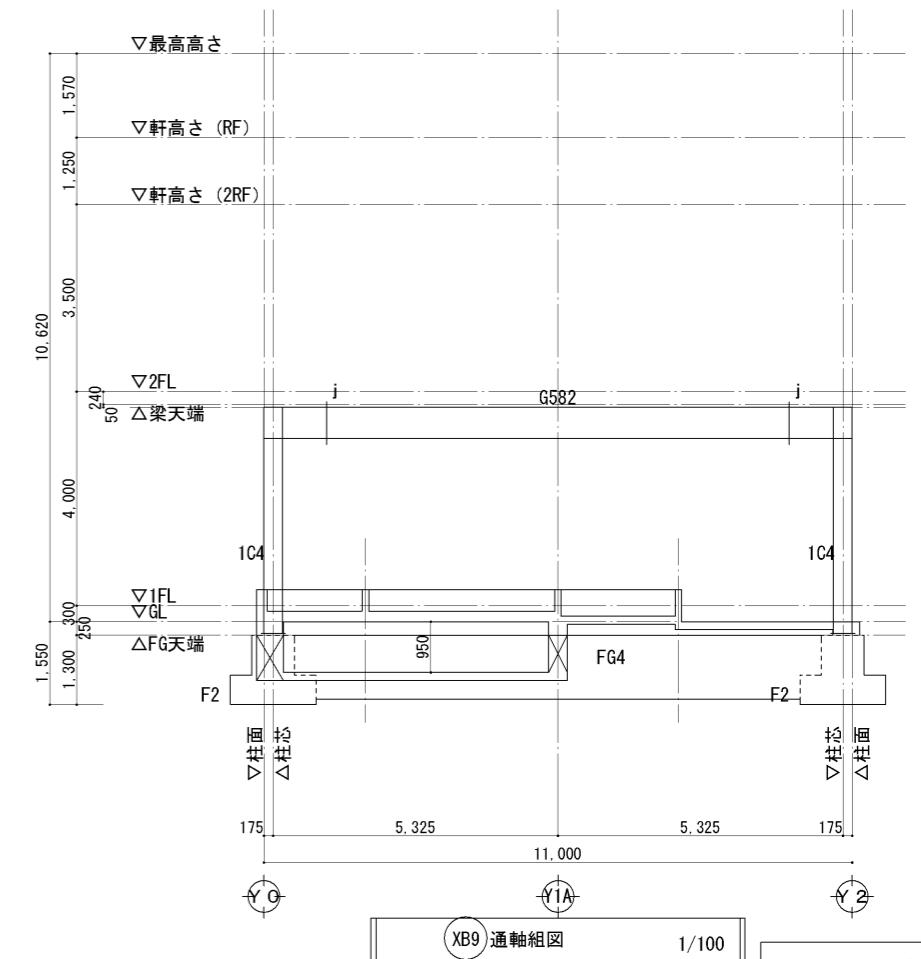
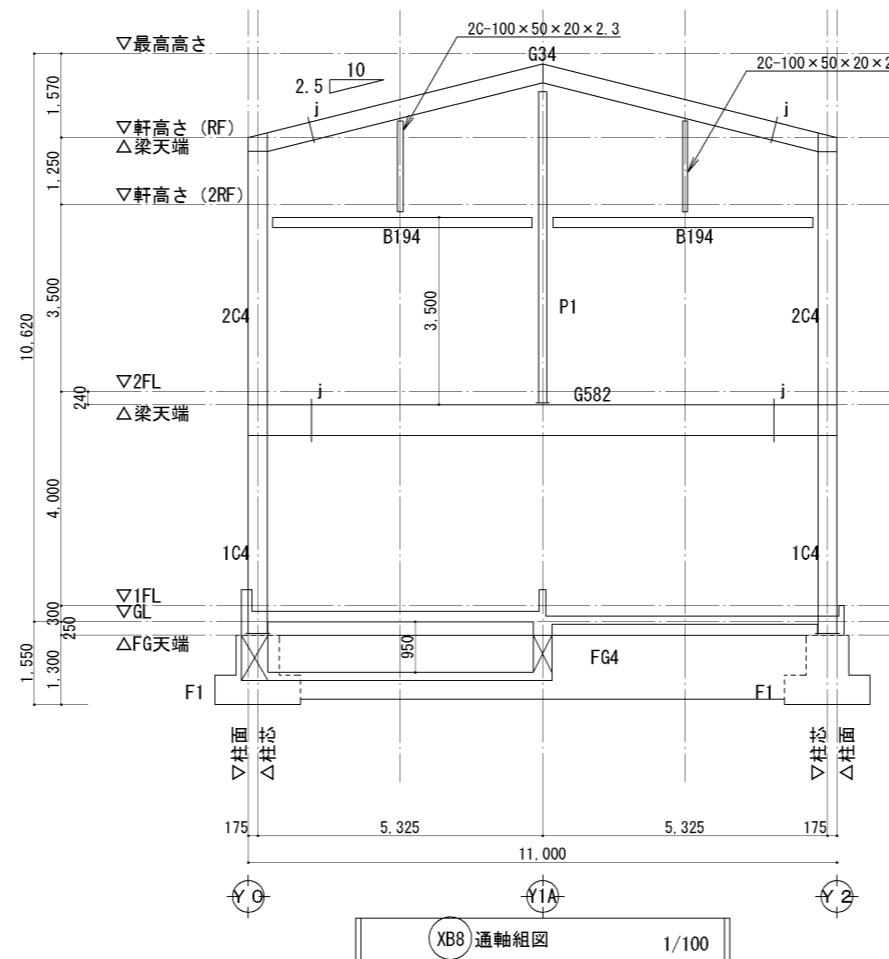
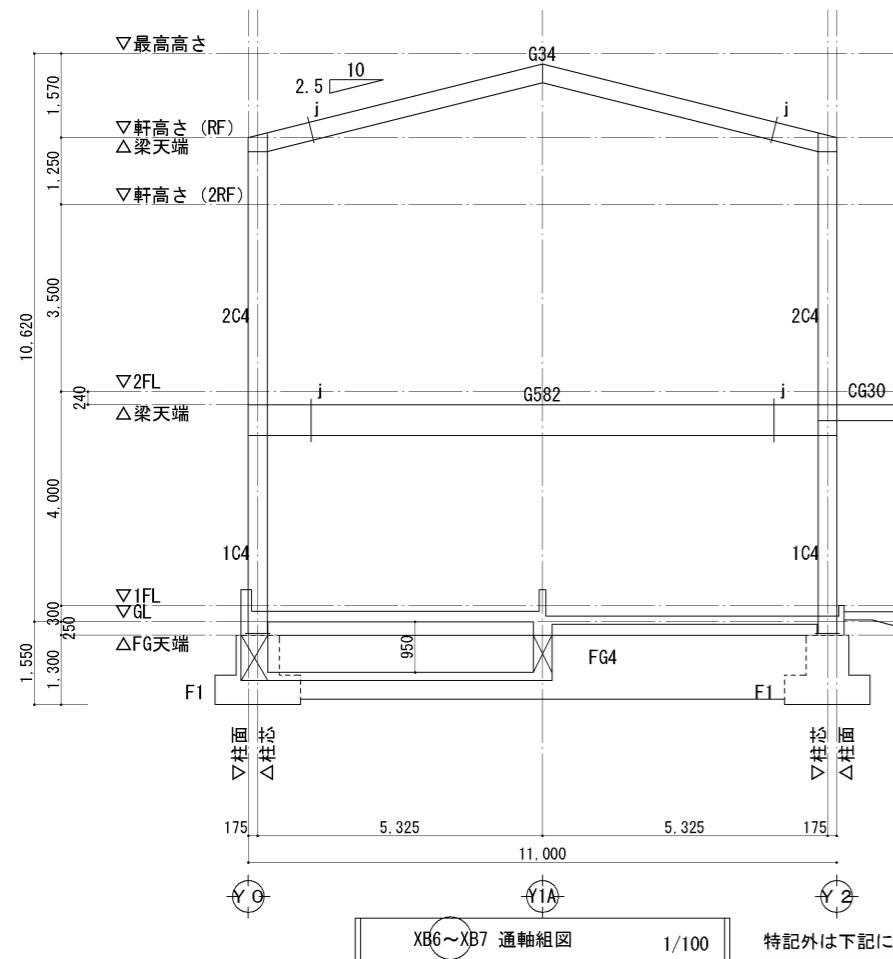
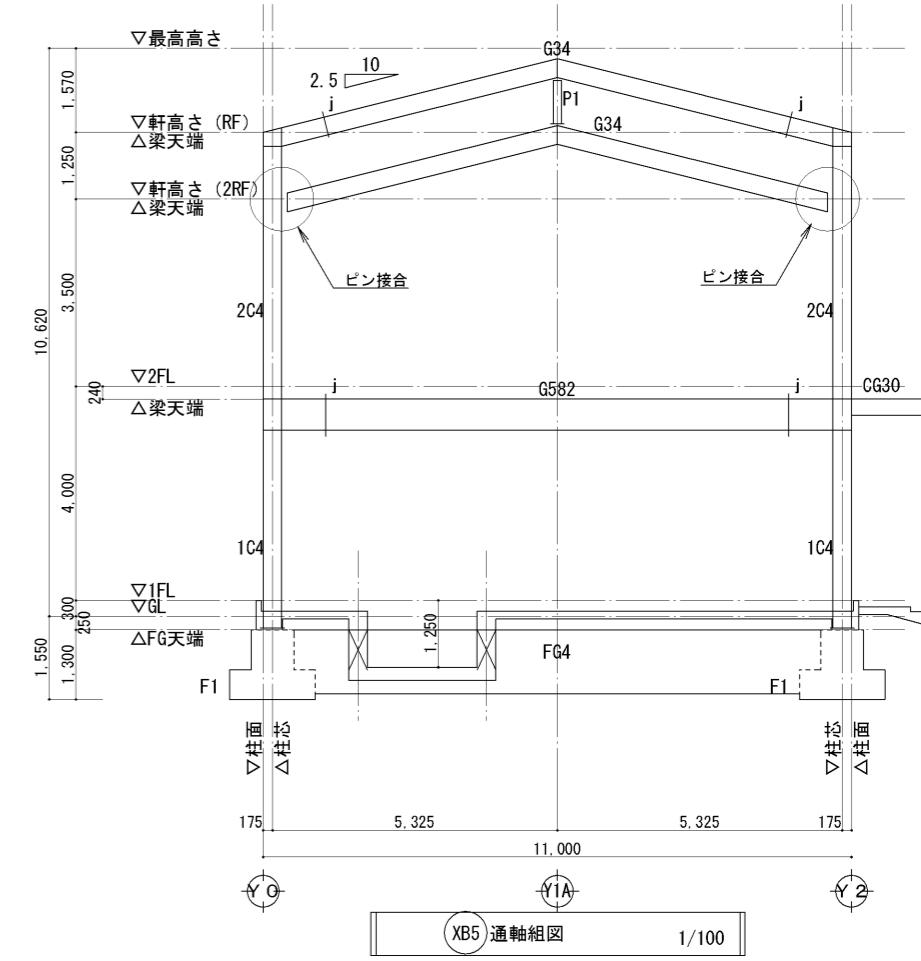
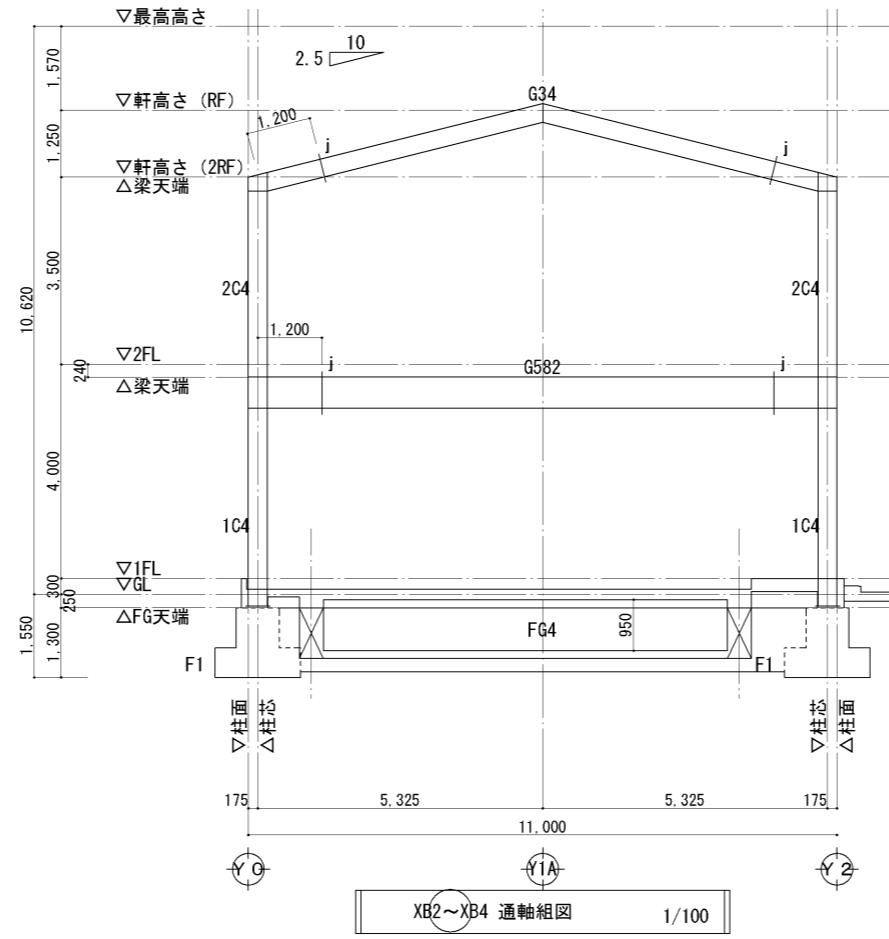
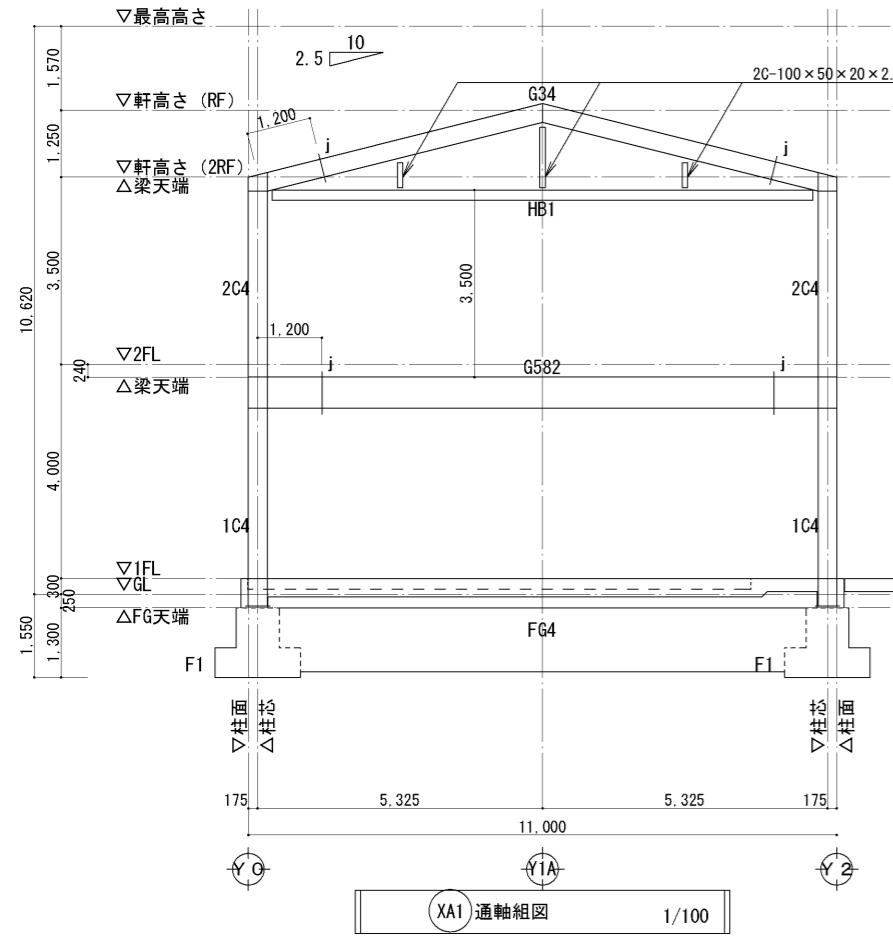
A棟



特記外は下記による  
 - BPL下端レベル GL-220  
 - 地中梁天端レベル GL-250  
 - 基礎フーチング下端レベル GL-1550  
 - 大梁継手位置 柱芯から1000とする。  
 - 特記無き寸法は意匠図参照とする。



B棟



特記外は下記による

- ・BPL下端レベル GL-220
- ・地中梁天端レベル GL-250
- ・基礎フーチング下端レベル GL-1550
- ・大梁継手位置 柱芯から1000とする。
- ・特記無き寸法は意匠図参照とする。

柱・間柱 リスト ※特記無きボルトピッチは、60@とする。

符号	C1		C2		C3		C4		P1	P2	P3	P4
部材	2階 2C1 □-350×350×16(BCR295)	2階 2C2 □-350×350×12(BCR295)	2階 2C3 □-250×250×9(BCR295)	2階 2C4 □-350×350×12(BCR295)	1階 1C1 □-350×350×19(BCR295)	1階 1C2 □-350×350×16(BCR295)	1階 1C3 □-250×250×12(BCR295)	1階 1C4 □-350×350×19(BCR295)	H-194×150×6×9	H-150×150×7×10	O-114.3×4.5	H-100×100×6×8
断面												
BPL	BPL-44×630×630(BT-HT440B-SP)	BPL-45×630×630(SN490B)	BPL-36×420×420(BT-HT440B-SP)	BPL-44×630×630(BT-HT440B-SP)	GPL-9	BPL-12	BPL-12					
A. BOLT	8-D38(SD390)	8-D38(SD390)	4-M39 (SD490)	8-D38(SD390)	HTB 2-M16	HTB 2-M16	HTB 2-M16	HTB 2-M16				
	※詳細はベースパック標準図による。	※詳細はベースパック標準図による。	※詳細はベースパック標準図による。	※詳細はベースパック標準図による。								

## 梁 リスト

符号	G582		G50		G40		G35		G34		G30	
部材	H-582×300×12×17		H-500×200×10×16		H-400×200×8×13		H-350×175×7×11		H-340×250×9×14		H-300×150×6.5×9	
断面												
フランジ(HTB)	PL-12×300×440 2PL-16×110×440	8-M22	PL-12×200×410 2PL-12×80×410	6-M20	PL-9×200×410 2PL-9×80×410	6-M20	PL-9×175×290 2PL-9×70×290	4-M20	PL-12×250×530 2PL-12×100×530	8-M20	PL-9×150×290 2PL-9×60×290	4-M20
ウェブ (HTB)	2PL-9×440×170	7-M22	2PL-9×320×170	5-M20	2PL-9×260×170	4-M20	2PL-6×260×170	3-M20	2PL-9×200×290	6-M20	2PL-6×200×170	2-M20

符号	CG40		CG35		CG30		CG24	
部材	H-400×200×8×13		H-350×175×7×11		H-300×150×6.5×9		H-244×175×7×11	
断面	継手はG40に準ずる		継手はG35に準ずる		継手はG30に準ずる			
フランジ (HTB)					PL-9×175×290 2PL-9×70×290	4-M20		
ウェブ (HTB)					2PL-9×140×170	2-M20		

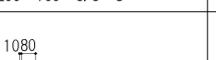
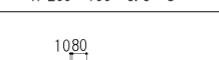
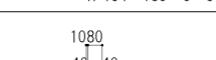
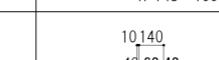
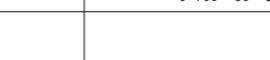
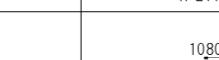
## 使用 材料

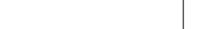
※使用材料は、下記若しくは同等品とする。

鋼板・形鋼	JIS G 3101	SS400	規格品	梁・間柱・プレート等
	JIS G 3136	SN490B	規格品	本柱ベースプレート
	JIS G 3136	SN490C	規格品	ダイヤフラム
	JIS G 3350	SSC400	規格品	母屋 垂木
角形鋼管	JIS G 3466	STKR400	規格品	ツナギ材等
		BCR295	認定品	柱
鋼管	JIS G 3444	STK400	規格品	間柱
高力ボルトのセット	JIS B 1186	2種A (S10T)	認定品	仕口、継手等
アンカーボルト	JIS II 14	ABR490	規格品	柱柱脚
	JIS G 3101	SS400	規格品	柱柱脚・間柱柱脚等

梁 リスト

符号	B60	B50	B40	B35	B30	B30A	B25	B25A
部材	H-600×200×11×17	H-500×200×10×16	H-400×200×8×13	H-350×175×7×11	H-300×150×6.5×9	H-300×150×6.5×9	H-250×125×6×9	H-250×125×6×9
断面								
GPL	PL-16	PL-12	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9
HTB	5-M22	6-M20	5-M20	4-M20	3-M20	3-M22	3-M16	3-M20

符号	B20	B20A	B194	B148	母屋・垂木	HB1		
部材	H-200×100×5.5×8	H-200×100×5.5×8	H-194×150×6×9	H-148×100×6×9	C-100×50×20×2.3	H-244×175×7×11		
断面					 二連梁とする 1820mmごとに20とする			
GPL	PL-6	PL-9	PL-9	PL-9	L-75×75×6	PL-9		
HTB	2-M16	2-M20	2-M20	2-M16	2-M12 (中ボルト)	2-M20		
					(スプリングワッシャー使用)			

符号	V1	HV1	HV2	HV3	HV4	HV5	QLデッキプレート合成スラブ	間柱座屈止め
部材	JISターンバックル筋かいM12	JISターンバックル筋かいM12	JISターンバックル筋かいM16	JISターンバックル筋かいM18	JISターンバックル筋かいM20	JISターンバックル筋かいM22	QL99-50-12	20-100×50×20×2.3
断面								
GPL	PL-6	PL-6	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9	鉄筋：タテヨコ共D10@200	PL-6
HTB	1-M12	1-M12	1-M16	1-M20	1-M20	1-M22	山上コンクリート:t=80	1-M16
							特記なきは標準図に準ずる	

使用材料

※使用材料は、下記基準は同等品とする

鋼板・形鋼	JIS G 3101	SS400	規格品	梁・間柱・プレート等
	JIS G 3136	SN490B	規格品	本柱ベースプレート
	JIS G 3136	SN490C	規格品	ダイヤフラム
	JIS G 3350	SSC400	規格品	母屋 垂木
角形鋼管	JIS G 3466	STKR400	規格品	ツナギ材等
		BGR295	認定品	柱
鋼管	JIS G 3444	STK400	規格品	間柱
高力ボルトのセット	JIS B 1186	2種A (S10T)	認定品	仕口、継手等
アンカーボルト	JIS II 14	ABR490	規格品	柱柱脚
	JIS G 3101	SS400	規格品	柱柱脚・間柱柱脚等

床スラブリスト						
符 号	類 型	スラブ厚 (mm)	位 置	短 边 方 向		備 考
				端 部	中 央	
S1	1	150	上 端 筋	D13-ø200	←	D10-ø200
			下 端 筋	D13-ø200	←	D10-ø200
S2	1	200	上 端 筋	D13-ø200	←	D13-ø200
			下 端 筋	D13-ø200	←	D13-ø200
FS1	1	250	上 端 筋	D13-ø200	←	D13-ø200
			下 端 筋	D13-ø200	←	D13-ø200
DS1	4	t=80 h=50		D10-ø200	←	D10-ø200
DS2	5	t=80 h=50		D13-ø200	←	D10-ø200
						短辺方向鉄筋は、DS1に定着させる事

